

関市が
もっといいまちに
なるための提案書

関市まちづくり市民会議の歩み

まちづくり市民会議（以下、市民会議）は平成 24 年からはじまりました。今期、第 9 期関市まちづくり市民会議は、令和 2 年 12 月にスタート。毎月 1 回程度全体会や、必要に応じて部会を開催し、これまで 10 回以上の会議を重ね、今回の政策提案に至りました。

市民会議の目的は、市民の参画と協働によるまちづくりを推進するため、市民の視点から市が抱える課題を洗い出し、課題解決のための様々な事業を提案することです。

市民会議の委員は、27 名の公募の市民により構成され、10 代～80 代の幅広い年齢層となっております。今期の市民会議は、調査活動や実践に重きを置きました。調査活動や、担当課を交えて議論したことで、政策に説得力が増すとともに、その政策を実行する主体についても検討することができています。

部会名	取組む課題
チーム「観光」	関市民が関を楽しみ、その魅力を自発的に発信できる仕組みづくり
チーム「U ターン」	関市を離れても地元で貢献できる関市出身の専門家の兼業・副業チームの構築
チーム「ダイバーシティ」	高齢男性が地域と関わるができる仕組みづくり

〈まちづくり市民会議の歩み〉

	開催日	会議内容
第 1 回	令和 2 年 12 月	問題意識の発表会
第 2 回	令和 3 年 2 月	部会分け&自己紹介、取組む課題・目指す姿を考えよう
第 3 回	3 月	部会別活動 課題・問題の構造、関係者を考えよう
第 4 回	4 月	部会別活動 行政へのヒアリング・視察をしよう
第 5 回	5 月	部会別活動 事業を考える
第 6 回	6 月	部会別活動 事業を考える
第 7 回	7 月	中間発表(共有) グループワーク・事業を考える、事業計画書にまとめよう
第 8 回	8 月	部会別活動 小規模で事業をテスト実施しよう
第 9 回	9 月	部会別活動 まとめ・発表準備
第 10 回	9 月	政策提案発表会
第 11 回	10 月	最終回:ふり振り返り・提案を受けて、担当課と委員で来年度実施に向けて協議しよう

まちづくり市民会議の提案は？

これまで第1期～第8期の関市まちづくり市民会議から市へ政策提案を行いました。各提案の概要と、その提案に対して担当課から出された回答を紹介します。

※これまでの提案の詳細については、関市市民活動センターホームページまたは「しっぷす」よりご確認ください。

【第1期】



提案
1

「親子読書コンクール」(学校教育課)

概要) 夏休みに、親子で読書をし、その本の感想を親子で共有し、親子読書の様子を発表するコンクールを開催してください。

結果	採用
実施状況	平成25年度に「ファミリー読書発表会」としてスタートしました。具体的には、学校等から推薦のあった家族の発表、図書館教育推進校の指定を受けている学校の発表等を行いました。平成30年度から、ビブリオトークに変更し、本の紹介をトーク形式で交流することを中心に実施し、夏休み中の読書意欲を喚起するようにしました。内容としては、小中学生が、これまでに読んだ本の中から、お勧めの本を1冊取り上げ、その本の魅力を紹介するものになります。 今後も継続の予定ですが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、やむを得ず中止としています。

提案
2

「子どもたちの地域間交流」(学校教育課)

概要) 市内の小中学生が、関市内の各地域の魅力を知るために、旧関市内と合併地域とで交流事業を実施してください。

結果	不採用(既存の事業を拡充します)
担当課からの回答	平成24年度から行っている「中学生リーダー養成研修会」において、例えば武儀・上之保地区を巡って、その地域の自然や文化等を題材にして交流を図るなど、工夫して実施したいと思います。



提案
3

「学校のHPの改革」(学校教育課)

概要) 学校への理解者を増やし、自校の教育活動をより活発化するためには、まず、学校が生きた情報を出し続けることが必要であり、そのために、教師とPTA、子どもたちが力を合わせて学校のホームページを作成してください。

結果	採用
実施状況	保護者はもちろんのこと、地域住民の学校への理解を深め、地域の学校としての位置づけを高めるため、学校の情報を積極的に発信する一助としてHPの工夫改善に取り組んでいます。 また、HP運営について新しい情報を容易にかつ迅速に掲載できるように、平成26年度に市内30校が基本的に同じフォームになるHPの作成をしました。現在は、統廃合により小学校19校、中学校9校の合計28校でHPを公開しています。

提案
4

「SNSを活用した親と教師・学校をつなぐコミュニケーション」(学校教育課)

概要) 親と教師のコミュニケーションを図るために、Facebookグループ等のSNSを活用してください。

結果	不採用
担当課からの回答	「親と教師・学校をつなぐコミュニケーション」は非常に重要なことです。顔を合わせて話すことが最も基本的で大切な方法だと考え、各学校では、保護者が学級担任以外の職員にも気軽に相談できるよう、年度当初のPTA総会や案内文書で積極的に相談窓口等を紹介しています。SNSもコミュニケーションの一つの方法ですが、互いの真意を伝えることが難しいことが一番の課題と考えます。また、送信するのは気軽にできる反面、同時期に多数の質問や意見等が学校に寄せられた場合、その一つ一つに丁寧に対応しようとするとしても時間がかかり、迅速に対応できなくなることも十分に考えられます。

提案
5

「子ども、親、教師が参加する学校対抗の行事」(学校教育課)

概要) 日常的に学校の情報を共有することは大切ですが、親、子どもと教師が一緒になって行事に取り組むことで、心の一体感が生まれます。そこで、親、子ども及び教師と一緒に活動に取り組む機会がなかなかなかったことを踏まえ、誰でも参加できる軽スポーツ(たとえば、綱引きや玉入れ)を学校対抗で行うなど実施してください。

結果	不採用
担当課からの回答	子どもと親と教師が一堂に会し、学校対抗を行う行事の開催は難しいと考えています。現在、「連合音楽会」(小・中)やタグラグビー(小)、水泳記録会(小・中)、「わたしの主張大会」(中)のほか、スポーツ少年団や中学校部活動の各種大会など通して、学校間の児童生徒の交流が行われていますが、この交流がさらに豊かなものになるよう働きかけをしていきたいと思っています。



提案
6

「関シティバス・デマンドバスの導入」(市民協働課)

概要) 利用者の移動目的に合った地域公共交通を提供するため、デマンドバスを導入してください。

結果	採用
実施状況	富野、田原、迫間、向山地域はデマンドバスで、下有知、瀬尻・広見地区は、デマンド乗合タクシーで運行しています。 地域や利用者の要望をお聞きし、時刻表の改正時期に合わせて、定期的に乗降所の新設を行っています。なお、平成 31 年 4 月から、ファミリーマートと協定を結びました。利用者や運転手が待ち時間内に店内を利用でき、利便性の向上が期待できることから、デマンド乗合タクシーの運行エリア内の全店に乗降所を新設しました。

提案
7

「シティバス・定期乗車券の導入」(市民協働課)

概要) 公共交通の通学利用者を増加させるため、バス定期乗車券を導入してください。

結果	不採用
担当課からの回答	定期乗車券の導入により利用者の若干の増加は期待できますが、通学利用者の運賃を割り引くことによる収入が減少することが考えられます。したがって、関市シティバスの定期乗車券の導入は、現状では効果が低いと思われるために、今後、慎重に検討していきます。なお、現在、シティバスの回数券(100 円券が 11 枚綴りで 1,000 円)を販売していますので、市民周知を行い回数券の利用促進を図っていきます。

提案
8

「関シティバス・市民サポーター制度の導入」(市民協働課)

概要) 持続可能な公共交通を実現するため、市民サポーターによる支援組織を設置してください。

結果	不採用
担当課からの回答	長良川鉄道につきましては、マイレール意識、存在の意義について市民の方に理解をいただいて様々な形で市民の皆さまからサポートしていただいておりますが、シティバスについてはまだその意識が薄いのが現状です。地域の公共交通を確保するために関シティバスの利用しやすい仕組みや路線を考え、改善を行っていく中で、関シティバスをはじめとしたバス交通の必要性を理解していただくことが優先だと考えています。 現在はバス車両を利用した広告掲載によって一部サポートをしていただいておりますので、企業や店舗に対して広告掲載を募集しています。

提案
9

「関シティバス・観光事業との連携」（市民協働課）

概要）新たな利用者を増やすため観光事業と連携してください。（例：1日フリー切符の導入、公共交通で楽しむ関市観光ガイドブックの作成、乗車特典等）

結果	不採用
担当課からの回答	平成26年4月に完成した関シティターミナルの待合所には、観光案内板や特産品販売のショーケースを設置し販売を開始しました。関シティターミナルの乗継拠点としてのPRおよび、シティバスを活用した観光ルートとバス路線図をまとめたガイドブックの作製を行い、関市観光協会と協力し、今後関シティバスを観光利用につなげていきたいと考えております。なお、1日フリー切符の導入は、利用者数や利用料金などの面で効果が低いと考えられますが、今後の課題として研究します。

提案
10

「長良川鉄道・トロッコ列車の復活」（市民協働課）

概要）観光目的の利用者を呼びこむ目玉として、かつて存在したトロッコ列車を復活してください。

結果	不採用
担当課からの回答	平成26年3月に沿線市町職員で構成される長良川鉄道再生研究会から沿線市町首長（取締役）に対して観光用車両の提案を行いました。 長良川鉄道からは導入に当たり、コスト面の詳細な分析、調査や線路等施設の耐久性調査等様々な課題があるという回答を得ています。 現在、トロッコ列車ではありませんが、観光列車の導入に向けて準備を進めています。

【第2期】

提案
1

「将来の想いに火を灯せ（カタリバ等の実施）事業」（学校教育課）

概要）市内の中高生を対象に認定NPO法人カタリバを招いて講演会またはカタリバ体験会を開催し、将来を話し合う対話スタイルについての理解を深めてください。また、継続的に関市内で実施していくための実行委員会を組織し、その市民ボランティアを広く募ってください。

結果	不採用
担当課からの回答	高校生に有効だと考えるので、市の教育委員会として働きかけることができる関商工高等学校に、キャリア教育の一環として紹介できます。

提案
2

「キャリア・コーディネーター設置事業」（学校教育課）

概要）より充実したキャリア教育を、より円滑に行うために「キャリア・コーディネーター」を学校に配置してください。キャリア・コーディネーターは、生徒の相談対応や学校と企業等との調整役を果たすようにしてください。

結果	不採用
担当課からの回答	キャリア教育に外部人材を登用して充実を図るということについて、内容や方法を十分に検討した上で実施を考えたいです。 今年度は、トップアスリートを招いて夢をかなえることの大切さや、夢をかなえるために努力することの大切さを学ぶ「夢教室」をキャリア教育の一環として開催します。

提案
3

「関市版キッズニア事業」（学校教育課、商工課）

概要）子ども向け職場体験型テーマパークが都市で人気です。そこで関市でも市内に様々な職種・職場があることを活用し、子どもたちに地域にある職場で仕事を楽しく体験してもらえるよう、「ハサミを組み立ててみよう」「ミシンを踏んでTシャツを作ってみよう」等を実施してください。関の産業を見ることは郷土教育にもなります。

結果	不採用
担当課からの回答	小学生の職場体験は、職業を疑似体験することに矮小化されないよう配慮することと、児童の発達段階を考慮して、慎重に進めるべきと考えます。 また、中学校で行っている職場体験との共通点や相違点を明らかにし

	て、検討する必要があります。また、国の教育改革の動きが加速しており、この事業の優先順位は低く実現できません。 関市でテーマパーク的に集約して、多様な職業を体験できるようなメニュー化は難しいと考えます。今年度は「関の工場参観日」を夏休み期間（8月26日～29日）に設定し、子ども向けのメニューも多数用意しているので、ぜひ参加していただきたいと思います。
--	---

提案
4

「キャリア教育の日の制定（学校教育課）」

概要）市民みながともに話し合い、高め合う日としてキャリア教育の日の制定を提案してください。

結果	不採用
担当課からの回答	キャリア教育に対する市民への啓発にはたいへん有効な提案であると考えます。具体的な活動内容について、学校等との調整を図りつつ、実現に向けて検討したいと思います。しかし、学校はそれぞれの地域の実状に合わせた地域との連携した事業に取り組んでいるため、関市全体でキャリア教育の日を制定するのではなく、各学校が取り組むべき事業に優先順位をつけて取り組むことが重要と考えます。

提案
5

「市長、部長インターンシップ」（職員課）

概要）関市内の若者に、関市長、部長へインターンシップする事業を実施してください。

結果	採用
実施状況	大学や若者の要望・意見等により提案された内容を一部修正し、平成27年度より若者の行政に対する仕事理解と職業観の育成を目的としたインターンシップを実施しています。 対象：高校生から大学生まで 期間：8～9月のうち、2日～5日間程度 募集人数：20人程度

提案
6

「学生による投票率アップチーム結成」（総務管財課）

概要）若者の投票率を上げるために、若者による若者に向けた投票率向上を訴える広報を考える事業を実施してください。

結果	採用
実施状況	平成26年度公募により、若者による啓発グループ「I KOMA Iプロジェクト」を結成しました。成人式や関まつりなどの行催事や大型店舗にて投票率向上のための啓発活動を行っています。

提案
7

「高齢者いつでもサロン」（市民協働課、高齢福祉課）

概要）高齢者が集まるために、誰もがいつでも気軽に立ち寄れるような常設の談話室のような空間「高齢者いつでもサロン」を実施してください。

結果	不採用
担当課からの回答	高齢者にとってたまり場は必要不可欠な場所であるため、市が取り組んでいる地域委員会（概ね小学校区を単位として設置）の取り組みとして提案していきたいと考えています。 提案にある場所での常設サロンの開催は困難であると思われます。現在常のサロンとしては、高齢者たまり場創造事業のモデルとして、シルバー人材センターに委託している「にこにこサロン」を本町で開設しています。歩いて行けるような身近な地域ごとのサロンとしては、社協支部の活動を地域委員会や老人クラブ、まちづくり委員会などと連携し、地域の実状に合った開催を検討する必要があります。

提案
8

「好きなことバンクと助け合いポイント制度」（企画政策課、高齢福祉課）

概要）高齢者の好きなこと、得意なことを登録した「好きなことバンク」の設立と、日常生活の助け合いを気兼ねなく行うために「助け合いポイント制度」を設けてください。

結果	不採用
担当課からの回答	対象者を高齢者に限らず、ボランティア活動が広く市民に普及する仕組みを、地域通貨の導入と併せて研究していきます。 シルバー人材センターに委託している「ワンコインふれあいサポート事業」と重複する部分があるように思われるため、事業の棲み分けを十分検討する必要があります。社協や市の関係課とも協議をしながら、導入できるかどうか検討します。

提案
9

「地域コーディネーター育成事業」（高齢福祉課）

概要）提案7、8の事業を行うためには、高齢者の取りまとめ役となるコーディネーターの存在が不可欠です。地域コーディネーターの育成事業を実施してください。

結果	不採用(既存の事業を拡充します)
担当課からの回答	まずは、高齢者自らが、自分たちが主体となり、地域づくりをしていくという意識づくりが重要であると考えています。生産年齢の減少により、労働力はますます減少するので、元気な高齢者に頑張っていただき、支援の必要な高齢者の支えになっていただきたい。持続可能な社会を存続するために元気な高齢者の力を期待しています。 地域リーダーの育成事業として「地域づくり型生涯学習コーディネーター育成研修」や「まちづくりリーダー養成事業」に取り組んできました。新たに事業を立ち上げるより、この事業に高齢者の視点を取り入れた内容を位置づけ、講座受講後の実践の場を提供します。

提案
10

「幸せ創造授業」（学校教育課）

概要）子どもの頃から人口減少時代の幸せについて考えることを定期的に行うことが大切です。小中学校で、人口が減って行く現状を教え、その後、その世界で「自分が幸せに暮らすために」について考える時間を設けてください。

結果	不採用
担当課からの回答	学校教育でぜひ取り上げたい内容です。実施方法は各学校の判断に任せますが、家庭教育学級説明会や校長会等において幸せ創造授業の実施を提案します。

提案
11

「幸せ実現企業」（商工課）

概要）提案 10 で出た中学生からのアイデアを関市の企業が本気で実現する場「ビジネスアイデアコンテスト」を開催してください。

結果	不採用
担当課から	「ビジネスプラス展 inSEKI」の場を活かす事が有効であるとの提案な

の回答	ので、秋に初めて開催する「関の工場参観日」も含め、実行委員会を組織しているので、提案の報告をしながら検討してまいります。
-----	--

提案
12

「幸せ応援行政」（商工課）

概要）提案 10、11 を取り組む上で、行政が金銭的、人的にサポートしてください。

結果	不採用
担当課からの回答	企業の商品開発のために補助することは難しいと考えます。提案事業 2 にあるような子どもたちのアイデアコンテストと連動した支援を検討します。

【第 3 期】

提案
1

「関のグルメの新提案 関デカ盛りプロジェクト」（観光交流課）

概要）各種飲食店が、常人では到底食べることができないその店オリジナルの“デカ盛りメニュー”を考案し提供してください。その各店がチームとなり、さまざまな情報発信から誘客、経済活性につなげます。

結果	現状、不採用
担当課からの回答	今回ご提案頂いた企画やコンセプトについては、市（行政が）中心となって実施するものではなく、熱意ある各店舗や商店街等との連携により実施するものと考えます。提案のありました事業について、各種店舗が集まる観光協会等において意見を聞き、連携して取り組んでまいります。 →（現在の状況）今のところ関係業界からの反応はないが、次回の観光協会総会で意見を聞いたり、各種業界に文書などで照会しながら、反応を見ていきたい。

提案
2

「小瀬鵜飼コンパ開催」（観光交流課）

概要）千有余年の伝統漁法「小瀬鵜飼」が行われる小瀬鮎の里で、男女が会う機会を創出してください。幽玄なかがり火が、燃え盛る恋の炎に変わります。

結果	現状、不採用
担当課からの回答	小瀬鵜飼保存会、観覧船事業を運営している関遊船株式会社、そこにかかわる船頭さんら関係者と、今回の提案について情報提供し意見交換を行います。また、鵜飼婚活の実施の際には、生涯学習課（公民館）における婚活施策や街コンを行う団体とも連携したいと考えています。 →（現在の状況）今のところ反応はないが、引き続き、小瀬鵜飼保存会、観覧船事業を運営している関遊船株式会社、船頭さんら関係者と意見交換をし、実施に向けて検討を重ねたい。



「わかもの活躍サポートセンターの設置」（市民協働課）

概要）高齢者のたまり場作りが進められているように、若者のたまり場ともいえる施設を設置してください。

結果	採用
担当課からの回答	関市市民活動センターの事業として継続して「関のわかもの会議」を実施しています。関市の若者が集まり、関で多様な働き方・暮らし方を学び、若者同士の語らいの場を作っています。参加した若者が関市のまちに関心を持ち、若者自ら活動を始めことを促進します。



「若者まちづくり会議の開催」（市民協働課）

概要）関市まちづくり市民会議は多世代の集まりです。若者にスポットを当てた、福井県鯖江市のJK課や全国各地で開催されている“若者会議”を関市でも開催してください。

結果	採用
担当課からの回答	関市では、平成28年度から高校生を対象とした「まちづくり倶楽部」が実施されました。そして、平成29年度には高校生の主体的なまちづくり活動を目的とした「VSプロジェクト」の活動へ移行しました。プロジェクトメンバーによる課題解決型の事業の実施や自分たちのやりたい企画の実践、関市内の見学、多様な方々と交流などを行っております。将来的には、関市のまちづくりプレーヤーに繋がることを目標に事業を推進しています。

提案
5

「新ブランド『刃モノー生モノ』の設立」(商工課)

概要) 新ブランドとして『刃モノー生モノ』を立ち上げてください。「一生使える物」という絞り込みを行い、企業から「一生使える刃物」、「一生メンテナンスの約束ができる刃物」公募し、外部認定委員会が認定します。

結果	不採用
担当課からの回答	関市の刃物は高い評価を受けておりますが、企業ごとでブランド展開されている場合が多いかと思えます。しかし最近では、今治タオルなど産地ブランドが浸透してきておりますし、刃物会社様とはビジネスプラス展、工場参観日、はもけんなどの行事も含め関係を持っており、今後もブランディングについても引き続き意見を聞いていきたいと考えています。

提案
6

「関は『刃物を使う町』『刃物を贈る町』として
市民からムーブメントを起こす事業」(商工課)

概要) 関市民は刃物を使うまち、贈るまちであることのムーブメントを作ってください。刃物のまちとして、市民が使うこと、贈ることを気に留め、行動に移すことで、市民の取り組みが話題を呼び、外部に向けた関市自身のブランディングへの一役となります。

結果	不採用
担当課からの回答	市では、伝統的な刃物が市民の皆様にとって、より身近に感じていただけるよう「ビジネスプラス展、工場参観日、はもけん」など刃物を身近に関われるイベントを行っています。これからも市民の皆様のムーブメントに合わせて、取り組んでいきたいと思えます。

提案
7

「わがまち防災会議の開催」(危機管理課)

概要) 市全体ではなく、小学校区単位で防災会議を開催してください。地域住民が、地域で起こり得る災害について話し合い、避難方法など行動計画をつくることを3年毎に実施してください。

結果	現状、不採用
担当課からの回答	多様な訓練を行っていただけるように防災訓練補助金要綱を見直し、予算の確保を行いました。また、岐阜大学内に設置された「清流の国ぎふ防災・減災センター」に講師派遣の協力を依頼しました。

提案
8

「運転免許更新時における災害 DVD の視聴」（危機管理課）

概要）運転免許更新時の交通安全講習会に交通安全啓発用DVDとともに防災啓発用DVDを視聴できるようにしてください。運転免許保有者は、毎年ではないものの必ず3～5年に1度受講するため、防災意識を向上させる良い機会となります。

結果	不採用
担当課からの回答	関市で実際に発生した災害を題材とするDVDについては、防災を身近に考えるための教材として活用できると考えますので、DVDの制作を検討します。また、関市で実際に発生した過去の災害の調査を行うだけでなく、関市で起こる可能性の高い災害についても調査を行いDVD製作の検討を進めます。

提案
9

「非常食を活用した料理コンテスト・料理教室の開催」（危機管理課）

概要）行政が備蓄している災害用非常食を使った料理コンテストや料理教室を開催してください。消費期限が到来する災害用非常食を防災訓練などで単に配布することよりも有効活用することができます。

結果	不採用
担当課からの回答	非常食を使った料理のレシピは、既に多く公表されており、その中から関市が備蓄している非常食などを用いた料理について、防災訓練などの各種イベントで紹介できるよう検討しています。

【第4期】

提案
1

「若者向けのアプリ、メールでの関のお店情報配信（安心メール活用）」
（市民協働課）

概要）安心メールの選択項目の一つとして、「若者向け、市内の魅力的なお店の紹介」を追加してください。定期的に、お店の記事が配信される仕組みです。配信される情報は、提案1等で作成したもの等が考えられます。この情報を配信するための学生チームをつくることも有効だと考えます。

結果	不採用
担当課からの回答	市が特定のお店や遊びの場所を紹介することはできませんので、観光協会や商工会議所などの協力が必要です。若者に向けた関市紹介アプリなどの開発支援を、市民活動助成金をできるのではないかと考えます。今後の展開としては、商工会議所等を通じて商店の学生割引拡大やPRなど若者に向けた発信が増えるよう働きかけをしていきたいと考えます。 あんしんメールを使ったグルメ情報の発信について積極的な考えではありません。

提案
2

「学生を中心とした関の魅力的な店舗の情報紙作成及び入学式での配布」
（市民協働課）

概要）現在、岐阜医療科学大学では、学生自治会が中心となり、関市のお店情報を作成し、それを入学生に配布しています。それを、関市全域に広げてください。また、市内の大学生とサポートする大人が集まり、「チェーン店だけではない、関の魅力的なお店」の情報紙を作成し、関の大学、専門学校の新生全員に配布してください。

結果	採用
担当課からの回答	中部学院大学と関市観光協会が協働で「せきたびものがたり 学生編」という冊子を作成しました。大学生が実際にフィールドワークを行いおすすめ観光スポットを紹介しています。 現在は、学生ボランティアネットワーク（仮）の連携を踏まえて、岐阜医療科学大学、中部学院大学と調整しながら、学生と地域との関わり方について再調整中です。



提案
3

「路線バスを使った観光モデルコースの作成及び路線バスの乗り方講習会の開催（市民協働課）」

概要）今回の板取ツアーのように、現在既に走っている路線バスで観光できるためのモデルコースを作ってください。季節ごとに、板取だけではなく、上之保や武儀へのツアーも考案してください。また、その路線バスで観光の旅を企画する時、最初の1日目に、案内人もついでに路線バス乗り方講習会を実施してください。

結果	採用
担当課からの回答	公共交通を使った市内の観光スポットを巡る4つのモデルコースを平成29年8月広報で特集しました。モデルさんにコースを回ってもらい、感想を記事にしています。 また、岐阜バスと連携し、路線バスの往復乗車券と武芸川温泉又は上之保温泉施設の入浴券をセットにしたお得なきっぷの発売を企画し、平成30年9月から販売を開始しています。

提案
4

「関市における貧困家庭の数を把握する『相対的貧困率』の調査の実施」（福祉政策課）

概要）世界的貧困の指標である「相対的貧困率」で、関市の貧困家庭の実態を調査してください。

結果	不採用
担当課からの回答	貧困率の算出には、世帯ごとの収入や支出についての各種データを幅広く収集して計算する必要があります。現時点では調査方法などについて確立されておらず、困難ではないかと考えます。また、市町村単位で貧困率の算出を行ったとしても、それだけでは他の市町村等との比較をすることができないため、得られたデータをより効果的に活用するためには、ある程度、自治体間の比較ができるように調査方法等を統一して実施することが望ましいと考えます。



提案
5

「学習支援の実施」（福祉政策課→子ども家庭課）

概要）定期的（週1回、2回程度）な学習支援を実施してください。定期的に実施していくためには、今回のようにボランティアのみでの運営は難しいと考えます。関市として予算化し、実施していくことが必要です。

結果	採用
担当課からの回答	平成 29 年度より関市ひとり親家庭の子ども学習支援業務及びコーディネーター委託事業にて、「NPO 法人子援隊」が週 2 回実施しています。また、ときめき事業にて西部地区の「いちょうの会」が地域の子どもの居場所づくりの活動をする中で学習支援を行っています。



提案
6

「子ども食堂の実施」(福祉政策課)

概要) 学習支援に合わせて全国的に広がっている子ども食堂を実施する。

結果	採用
担当課からの回答	平成 29 年度より関市子ども食堂運営事業補助金を実施し、今年度は、NPO 法人ヘルシーライフせきが 1 か所で月 2 回ひとり親を対象に子ども食堂を開設し補助を行っています。 また、道の駅むげ川にて、武芸川地区の子ども対象に武芸川子ども食堂が、西部地区 いちょうの会による子どもの居場所づくり(学習支援)の活動の中に軽食提供があります。

【第 5 期】



提案
1

「子どもミュージアム商店街の初期費用のサポート」(商工課)

概要) 商店街を主として、親子が商店の仕事を体験できるイベントを定期的で開催することを考えています。市には、実行委員会の発足の働きかけや、初年度のみ費用の補助及び事業の宣伝活動をお願いします。市と協働することで、実行する負担を軽減し、また、市と関連のある教育委員会等と通じることで、宣伝効果も高いと考えられます。

結果	採用
担当課からの回答	商店街を中心とした実行委員会が主体として事業運営を担っており、市としては、令和元年度までは参加者募集のための小学校へのチラシ配布、当日の運営補助を行っていましたが、昨年度から新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、事業は中止となっています。 今後の事業継続を見据え、財源含め事業を持続できる方法を検討していきたいです。

提案
2

『小瀬・池尻周遊観光』のオプションツアー(有償)作りの補助(観光交流課)

概要) 鵜飼に来たお客さんへ「小瀬・池尻周遊観光」のオプションツアー(有償)を作るお手伝いをしてください。将来的な運営は「関遊船」もしくは「関市観光協会」に任せることを前提に、オプションツアーを作るための、ガイドの育成、ツアーの企画、立ち上げの広報等のお手伝いをお願いします。

結果	保留
担当課からの回答	周遊地域への回遊性を高める施策の一つとして、オプションツアーの手法は効果的であり、今後チームで研究される時にはアドバイスさせていただきたいと考えます。

提案
3

「鵜飼乗船場での『小瀬・池尻周遊観光』マップ及び看板の設置」
(観光交流課)

概要) 看板と同時に、周遊するためのマップを作ってください。＜設置場所：鵜飼乗船場、各鵜匠の家、関観光ホテル、円空館、市内の各スポット等＞

結果	採用
担当課からの回答	池尻周遊観光の看板は設置いたしました。関市周遊観光のマップについては既存の観光マップで対応しています。

提案
4

「大学と市が連携した講義の提供」(市民協働課)

概要) 関市のまちづくりや、歴史、福祉の現状が学べる講義を関市から提供してください。福祉・医療に関しては、担当の市職員や関市の施設での実習など、関市の実情から学べる機会を作ってください。

結果	採用
担当課からの回答	中部学院大学では、平成30年度より地域の福祉やまちづくりを学ぶ機会を提供する授業を年1回実施しています。 また、岐阜医療科学大学では、ボランティア技法の授業の中で、市職員が大学に行き、学生が提案する地域課題解決事業の意見交換を実施しています。



提案
5

「大学と市民合同の関市を知って楽しむサークルの立上げを支援する
コーディネーターの設置」(市民協働課)

概要) 今回の企画でサークル結成の意向のあった学生たちを中心に、学生が関市の魅力的なスポットを訪れたり、イベントに参加できたりする活動を市民と大学生との合同で立ち上げます。市民や大学をまたがる活動になるため、その運営には、間に入って調整するコーディネーターが必要だと考えます。設立して軌道に乗るまでコーディネーター支援をいただき、徐々にメンバー内でできるようにしていくことが望ましいと考えます。

結果	採用
担当課からの回答	市民協働課と市民活動センターとで連携し、具体的なコーディネートの内容を検討し、コーディネーター設置事業を試行的に実施する方向で進めていきます。また、サークルという形を作るには、メンバーを必要とします。わかもの会議の開催などで関心の高い学生を集めていくことを検討していきます。現在は、学生ボランティアネットワーク(仮)の連携を踏まえて、岐阜医療科学大学、中部学院大学と調整しながら、学生と地域との関わり方について再調整中です。



提案
6

「広報せきでの大学生向けの情報発信」(秘書広報課)

概要) 住民票を移さずに関市に移住してきた学生へ、広報せきを配布してください。大学生の暮らしに役立つ情報ページを、広報せきに設けてください。市からの情報の提供だけでなく、大学生が自身の目線から必要な情報を提供できるページとして設けてください。

結果	採用
担当課からの回答	広報は、市の取り組み、市民生活に役立つ情報などを広く周知することを目的とした刊行物であり、店舗やアルバイト、クーポン情報などを掲載する雑誌とは差別化しています。 また、広報は幅広い年齢層の方々に役立つ情報を掲載していますので、大学生の生活においてもご活用いただける内容となっています。平成31年1月からは、若者にも手に取ってもらえるよう表紙をはじめとしてイメージを一新して製作しています。

【第 6 期】



提案
1

「昼間の観覧船を活用したツアーの実施及び
様々な人や団体が昼間の観覧船を活用できる仕組みづくり」（観光課）

概要）小瀬周辺地域を楽しむツアーと観覧船の乗船をセットにした企画を実施してください。また、より多くの人や団体が、観覧船を活用できる仕組みづくりとして、昼間の観覧船を活用する場合の、金額や時間等明確なメニューやルールをつくることや、船の費用の補助を検討してください。

結果	採用
実施状況	現在、昼間の時間や空き時間の船の利用について紹介いたしましたが、関遊船株式会社の利益の見込みが立っていないため、具体的な企画立案に至っておりません。



提案
2

「子どもたちの定期的な川遊びプログラムの実施」（観光課）

概要）関の魅力的な資源として、川に親しみ育つことが当たり前になるために、定期的に川遊びプログラムを実施してください。また、子どもが川に親しむことが当たり前になるためには、親も川を親しむことが必要です。そのために、川遊びができる親を育てるプログラムや、川の危険性を学ぶプログラムの実施してください。この企画の運営には、川の達人を集めた団体ができ、実施を担うことが理想です。そのために、当初は、市民活動助成金の行政提案メニューである「いきいき」助成金にて、公募するところから始めてもらうことが良いと考えます。

結果	採用
実施状況	ご提案いただいた通りまさに市民活動であるため、助成金を活用し活動いただける団体、個人の方が活躍いただけることを期待しております。



提案
3

「民泊経験者を交えた民泊に関する説明会の定期開催」（観光課）

概要）1ヶ月に1回程度など定期的に、市民に向けて民泊の状況や、法律、申請方法に関する説明会を設けてください。また、その説明会に市民の民泊経験者による体験談を話す機会を設けてください。

結果	採用
実施状況	刃物まつり開催期間中にイベント民泊を開催し、民泊を周知する事業として実施しました。興味のある方は、民泊サイトをご活用ください。



提案
4

「関市内の民泊実施者の情報及び民泊の始め方の事例集約・閲覧」（観光課）

概要）関市内の民泊を実施した市民がどこで実施しているかをリーフレットのような形で集約してください。また、民泊の始め方（どのように家族の協力を得たのか、どのような手順で始めるに至ったのかなど）を集めた事例を民泊説明会時に渡すなど、情報として発信し、民泊を始めたい方へ周知してください。

結果	採用
実施状況	関市内における新たな民泊提供者を増やすための説明会や講演会、民泊提供者とゲストを結びつける世界最大級のサイト『Airbnb』を活用した事業実施を検討していきます。詳細につきましては民泊サイトでご覧いただけます。



提案
5

「ボランティアネットワークづくり」（市民協働課）

概要）大学内にはボランティア活動を行う団体がいくつかあります。これらの団体と、ボランティアを必要とする地域へ呼びかけていただき、両者をつなぐネットワークの立ち上げを主導して行ってください。

結果	採用
実施状況	今年度は、岐阜医療科学大学、中部学院大学と調整しながら、学生と地域との関わり方について検討を進めています。



提案
6

「ボランティア受け入れ側への研修・コーディネート」（市民協働課）

概要）ボランティアや大学生の協力を必要とする地域団体（受入側）に対して、プロジェクト型ボランティアとして募集できるように、指導してください。大学生との窓口は提案 1 のネットワークからつなぎたいと考えます。地域団体独自でボランティア募集をかける前に、ボランティア内容、目的、期間、募集人数、参加方法、得られる経験などをきちんと明確にし、大学生にとって参加したいと思うボランティア募集内容作りへのアドバイスをネットワークに参加し地域団体へ行ってください。

結果	採用
実施状況	地域委員会を対象に岐阜NPOセンターが実施している「ボランティアの受入側の研修」の案内を送付しました。本年は10月に市民活動センターと協働でボランティア受入側の研修を開催します。

【第7期】

提案
1

高齢者世帯に対して、「防災チケット」を発行してください。（危機管理課）

概要）防災に関心のなかった高齢者が、事前の備えについて確認できるよう、減災のアクションが一覧になった「防災チケット」を渡してください。

結果	不採用
担当課からの回答	世帯構成や住居、所持品などの違いにより、各世帯によって必要、不必要の差やサービス内容が大きく異なる可能性があること、また無料で実施することは資材・人材的にも非現実的です。昨年度、全戸配布した「防災ガイドブック」の内容と重なる部分があるので、出前講座や防災訓練などのなかでの意識啓発と各世帯での災害対策の実践により対応したいと考えます。 また、今後も有効な防災対策について検討していくとともに、市内の防災士が活躍できるようつながりや人材育成も行いたいと考えます。

提案
2

「防災チケット」を、高齢者に関わりのある人から渡してください。
また、その団体に対して、防災の講習会を開催してください。（福祉政策課）

概要）提案1の「防災チケット」を、民生委員や自治会、社会福祉協議会など、普段から高齢者に関わりのある人から手渡し、ともに確認しながら、本人に説明してください。また、それら団体に防災の講習会を開催してください。

結果	不採用
担当課からの回答	民生委員児童委員は、特別職の地方公務員であり、ボランティアとして活動しています。相談や支援及び助言や行政等との連絡調整などは行っていますが、防災も含め指導する立場ではありません。要配慮者への支援については、すべての人の関わりが必要であると考えます。民生委員児童委員の立場に関わらず、いち市民として防災講習に参加していただければと思います。



コミュニティバスの「乗り方」を説明した動画（コマ送り動画）を作成してください。（都市計画課）

概要）バスの乗り方は各地で異なり、それがよく分からないがために乗ることに繋がらない点があります。バスの乗り方を動画で説明し、web サイトや、バス停で QR コードが読み取れるようにしてください。



高校生（若者）へおすすめしたいスポットへのバスでの行き方を、楽しい動画（コマ送り動画）で作成してください。（都市計画課）

概要）動画は高校生がアクセスしやすく、目的地までのバスでの行き方を紹介することで、コミュニティバスの利用が促進できると考えます。また、高校生が身近に感じるシチュエーション動画が望ましいです。高校生たちが憧れるユーチューバーに監修に入ってもらい、高校生や若者を中心とした動画制作チームを作ると、より楽しいコンテンツが生まれると考えます。

結果	採用
担当課からの回答	実施にあたり、令和 2 年 8 月に、市民協働課や市民活動センターと今後の進め方について事前打ち合わせを実施しました。同年 9 月に動画撮影に協力してくれる若者への協力依頼と意見交換を行い、@SEKI チームや若者と動画の構想やお勧めスポット等について会議を行いました。令和 3 年 2 月に、ユーチューブの関市公式チャンネルにて、「若者たちがおすすめしたいスポットへのバスでの行き方（西エリア）」と「バスの乗り方」を分かりやすく説明した 2 本の動画の配信を開始しました。



パパが主役になれて、夫婦で参加が可能な託児付きの子育て講座を実施してください。（子ども家庭課）

概要）夫婦のパートナーシップを築くには、当事者同士だけでは難しいため、講座という形で、夫婦の時間づくりを行政がサポートする必要があると考えます。パパが主役の「料理講座」や「夫婦のコミュニケーション」がとれる講座など、行政だけでなく、子育て世代の声を取り入れて企画することが望ましいです。

結果	採用
実施状況	令和2年度 関市いきいき市民活動助成金(協働型)事業として実施することとし、令和2年度の講座内容に関する助言等を行ったが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、講座の開催が中止となりました。 令和3年度についても上記助成金事業の公募をしましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、応募団体もなく、実施に至っていません。

【第8期】



提案
1

地域委員会のアドバイザーとして、農業委員が協力してください。(農林課)

概要) 地域委員会が地域内の休耕地を活用する主体として事業を行うとき、地域委員会の部会に、農業委員や農地利用最適化推進委員が関わり、農地の情報提供や、栽培方法等を指導してください。

結果	採用
実施状況	現況は地域委員会等からの休耕地の利用相談はなく、今後検討を考えている地域があれば、相談に乗っていきたいと考えています。



提案
2

農地活用のスタートアップとして、「農地イキイキ再生週間」のような制度を市で設けてください。(農林課)

概要) 「農地イキイキ再生週間」とは、県が農業再生協議会と連携して、年度内に1週間を設定し、集中的かつ重点的に行なわれる荒廃農地解消活動です。この制度は土地の整備において非常に有効で、地域委員会が活用しやすいような制度として設けてください。

結果	採用
実施状況	令和4年度実施に向けて、各地域の活動組織と協議を行うよう進めていきたいと考えています。



提案
3

市役所のホームページ（ふれあい教室）に、関市の不登校に関するQ&Aを掲載してください。また、「広報せき」にも、その情報を掲載してください。
（学校教育課）

概要）相談機関先の情報や、学校への対応について分かりやすくまとめたいただき、困ったときにいつでも情報にアクセスできるように、市のホームページに掲載してください。

また、その情報があることを、「広報せき」にQRコードを掲載するなど、定期的に発信してください。

結果	採用
実施状況	「ふれあい教室」のホームページに設けた「開室カレンダー」は更新し、ふれあい教室に関わる Q&A や子どもに関わる悩みの市内相談機関の一覧などは継続して掲載しています。また、高等学校の情報を入手できるように進学情報のコーナーを設け、岐阜県立高校一覧表などにリンクを貼りました。



提案
4

子どもがふれあい教室まで通えるように、送迎サービスを実施してください。
（学校教育課）

概要）小学生にとっては、ひとりでバスに乗ることが難しく、また、遠方の場合では、時間帯が合わないことが考えられます。ファミサポの送迎ボランティアのように、民間に委託するなど、既存のサービスとの連携を考えてください。

結果	採用
実施状況	現在小学生の入級者は9名ですが、ファミサポの利用者はおらず、保護者が送迎をしています。送迎サービスの検討をしましたが、ふれあい教室を利用している児童生徒で毎日利用している者は少なく、定時で送迎を行う公共サービスはニーズに合いにくいと思われます。 また、昨年度から始めたオンライン授業システム「パルスステップ」は導入したもの、問題演習だけでは児童生徒のニーズに合わず、現在は GIGA スクールのタブレットを利用した学校の課題に取り組めるようにしています。



提案
5

総合的な学習の時間に活用できるよう、地域の宝データベースを作成してください。（市民協働課、学校教育課）

概要）地域委員会ごとに、「知っておくべき地域の歴史、自然」や「自分の地域にどんな企業何をやっているのか」、「地域に住んでいる特技がある人」などの情報を収集し、中学校区ごとに共有・活用してください。

結果	採用
実施状況	現在は各校から得られた情報をデータベース化し、活用できるよう整えています。



提案
6

子ども達の地域の理解が進むよう、地域委員会主導による地域学習スタートアップセミナーを実施してください。（市民協働課、学校教育課）

概要）地域学習の最初として、小学校、中学校の授業を3時間ほど地域委員会に依頼してください。子どもの主体的な学びになるように地域委員会がプログラムを考え、モデルケースとして数校で実施してください。

結果	採用
実施状況	現在は地域探検や総合的な学習の時間を利用した地域学習（上之保のゆず工場見学や林業体験など、地域の特産品に対する学習など）を実施しています。 なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、昨年度、授業を実施された地域委員会でも今年度は実施できていない状況です。今後は、学校側と地域委員会側の意向を確認しながら進めていくことが必要であると考えています。



提案
7

学校と地域と行政がより連携できるよう、地域支援職員が地域学校協働コーディネーターを担ってください。（生涯学習課、市民協働課、学校教育課）

概要）現在、地域支援職員の役割は曖昧な面もあり、まだまだ本来の役割を発揮できていません。地域支援職員は市職員であり、学校との連携も取りやすいと思われるため、地域支援職員 4 名の中から、1 名を学校コーディネーター担当とすることで、学校と地域と行政がより連携できると考えます。

結果	実施のため検討中
実施状況	各学校で教職員を地域学校協働コーディネーターと連携するための地域担当職員として位置づけています(多くは教頭先生が兼務しているが、一部学校では主担当として配置している学校もある)。 なお、現在高齢福祉課の生活支援コーディネーターが10年以上教員経験を有し、地域にも顔が効くため、水面下で働きかけてもらっています。瀬尻地域や、富野地域などで地域に入り込んで活動しているため、学校との連携できるよう模索しています。

— 市民・行政が関の魅力発信に向けて共に働きかけるために —

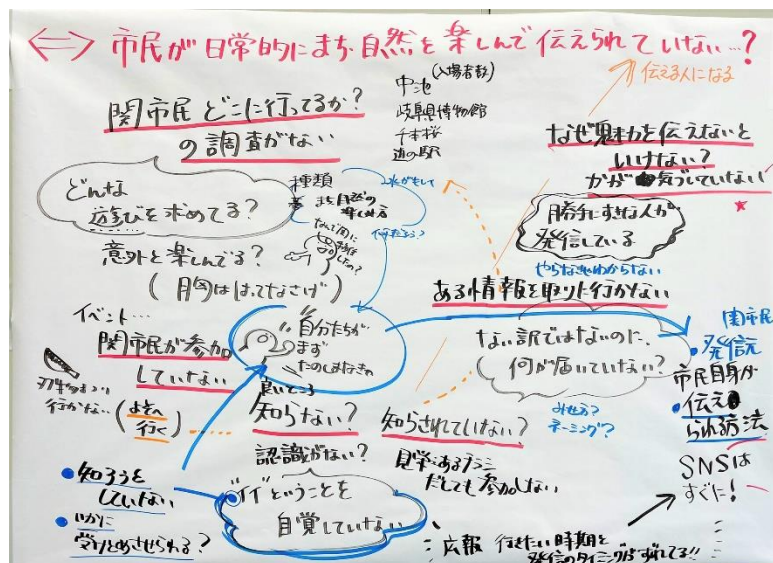
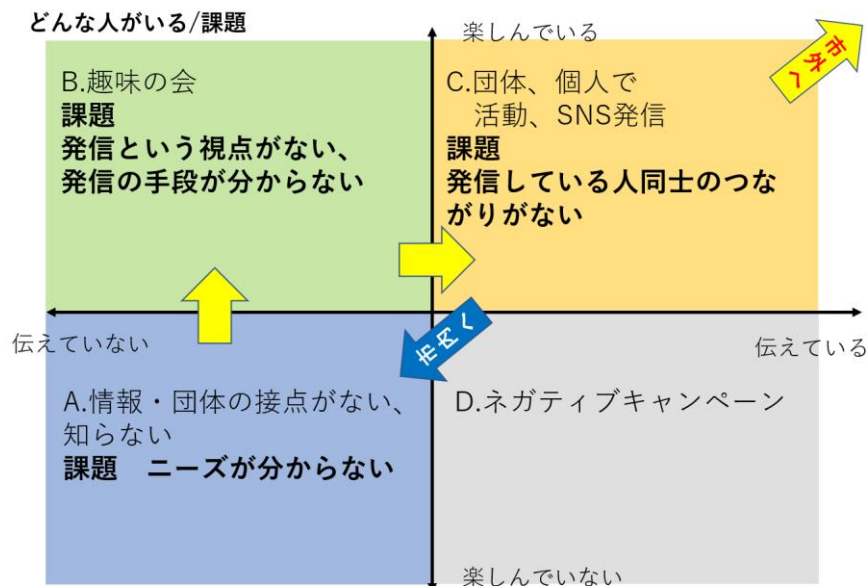
私たちが目指す関のまちづくりの宣言文

私たちの目指す姿は、「関市民が関の魅力を楽しんで市外の人に自発的に伝えられる」関市です。そのために、「市民が関の魅力を市外の人に発信できていない」という課題に取り組むことにしました。

課題の原因は「市民自体が関市の魅力をあまり知らない・関市が良いという自覚が少ない、取りに行きたいと思える情報がない、市民が発信する手段がわからない・発信の場がない」ですが、今回は特に「市民自体が関市の魅力をあまり知らない・関市が良いという自覚がない」に対して取り組みます。

これを解決するために、行政、企業、市民活動などの他組織の活動を踏まえ、私たちは「メンバーに発信者がいる」という強みを生かし「関の魅力に関する市民向けの調査及び市民による発信の支援」を提案することで、関市の課題解決にもっとも貢献することができると考えています。

だから私たちは「関の魅力に関する市民向けの調査及び市民による発信の支援」をすることで、「関市民が関の魅力を楽しんで市外の人に自発的に伝えられる」という関市を実現します。



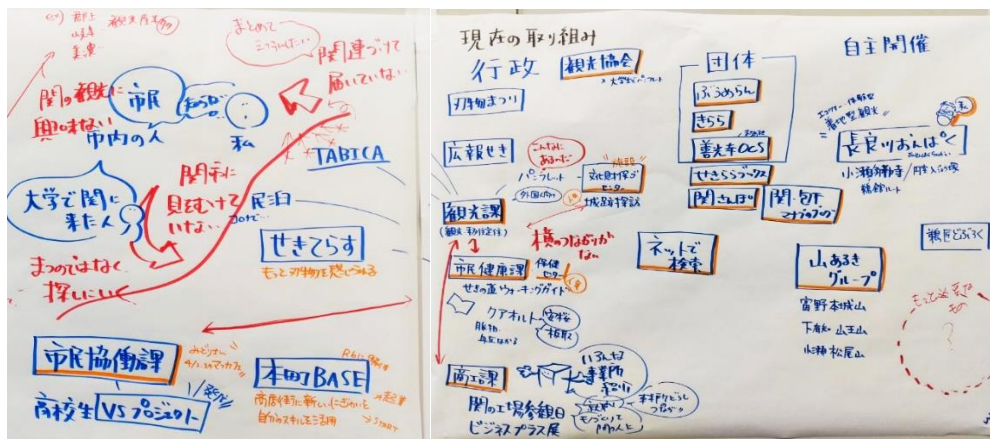
1. 市民自身が関市の魅力をあまり知らない・関市が良いという自覚が少ない（Aの部分）
関市の魅力を市民が発信するには、市民が関市の良さを知り、発信者となる必要があります。

しかし、現時点だと、自分のまちの取り組みを知り、まちの良いところや文化を誇りに感じ、自ら訪れたり、友人・知人に関市を勧める人が多いとは言えません。また、「市民が普段どこに行くのか」という調査也没有ありません。市民がまず関市の魅力を知り、市外の人に誇れる場所を紹介できるのかという調査が必要と考えます。

2. 取りに行きたいと思える情報がない（Aの部分）

行政も各課から市民向けに多くのイベント情報を発信していますが、行政の広報だけでは市民に情報が届いていないのが現状です。その原因は、「各課がそれぞれで発信している（取りまとめて発信していない）」ことや、「取りに行きたいと思えるような内容になっていない」、「行政が発信する情報には限度がある（公平性のため個人店などは紹介できない）」ことが考えられます。

一方、発信については行政だけでなく、自ら積極的に発信している個人や市民活動団体等もあります（Cの部分）。しかし、よりたくさんの人に情報を周知するためには、まず、発信していること自体を認知してもらう必要があります。その点を行政と協力することで、お互いの強みを生かしながら、効果的な発信が出来ると考えられます。



3. 市民が発信する手段が分からない、発信の場がない（B・Cの部分）

関市の魅力発信は、市民が個人でもできることですが、より効果的な発信をしてもらうには、記事の編集や写真撮影、SNSの効果的な使い方など、発信のスキルが必要となります。現状は個人で努力しなければならず、BからCに行くまでのハードルがあります。また、同時に、発信のスキルを身に着けた後には、そのスキルを活かされるような機会を持つことも必要です。

これらの課題を踏まえ、今回は、「市民自身が関市の魅力をあまり知らない・関市が良いという自覚が少ない」ことに対して、取り組むことにしました。

Ⅱ 取り組んだ活動

調査活動

①アンケートの実施

関市民は普段どこに遊びに出かけるのか、また、関市の魅力的な人・モノ・コトについてどれだけ知っているのか、またそれらの情報の集め方について、アンケート調査を実施しました。

対象：関市民

アンケート回収方法：紙面（本町 BASE、わかくさ・プラザ学習情報館 1 階）及び web



再発見！
関のゆとろ
マッピング

わたしが知らないスポットは、きっとあなたが知っている

アンケートご協力をお願い

- 関市民が関の魅力を楽しみ
- その魅力を自ら発信することで
- 市外にも魅力が伝わり訪れたい関市へ！

関市へ政策提案するため、「関市民は普段どこに出かけている？」「どこで情報収集？」等を調査しています。
アンケート回答にご協力お願いいたします！
※本アンケートは、市民会議での報告時に個人が特定されない形で使用し、本事業以外に使用することはありません。

関市まちづくり市民会議「観光」チーム

■年代(10 代未満・10 代・20 代・30 代・40 代・50 代・60 代・70 代・80 代以上)
■あなたは現在…(関市在住・在勤・在学・その他)

質問1. あなたは、休日、どこへ出かけることが多いですか？（コロナ以前と以降）		
	📍コロナ発生 以前	📍コロナ発生 以降～現在
日帰りの場合	☐ 関市内 / ☐ 岐阜県内 / ☐ 岐阜県外	☐ 関市内 / ☐ 岐阜県内 / ☐ 岐阜県外
宿泊を伴う場合	☐ 関市内 / ☐ 岐阜県内 / ☐ 岐阜県外	☐ 関市内 / ☐ 岐阜県内 / ☐ 岐阜県外
質問2. あなたが友人や知人に紹介している、関のオススメの場所・モノ・ヒトを教えてください。（複数回答・歓迎） ない方は、その理由を教えてください。		
質問3. あなたは関市内のイベントやオススメスポットなどの情報を、何で入手していますか？		
☐ 関市役所ホームページ / ☐ 観光協会(せきてらす)ホームページ / ☐ 家族・知人からの口コミ / ☐ チラシ ☐ Instagram(特に見るアカウント:) / ☐ facebook(特に見るアカウント:) / ☐ Twitter(特に見るアカウント:) / ☐ 動画サイト(特に見るアカウント:) / ☐ web サイト・ブログ(特に見るサイト:) / ☐ テレビ / ☐ その他()		
質問4. あなたが関市内に出かけたい方には、関市にどんなスポットや工夫があればよいと思いますか？		
スポットのアイデア (複数回答・歓迎)	レジャー施設 / 文化施設 / ワークショップ・体験 / 子どもが遊べる場所 / その他()	
工夫のアイデア (交通・情報発信など複数歓迎)		
質問5. 本イベントは、「関市民自らが、推したい関の魅力を発信する」を、テーマとして開催しました。 本イベントのような、自らが発信する機会についてお考えをお聞かせください。		
A.本イベントについて	☐ 面白かった / ☐ やや面白かった / ☐ あまり面白くない / ☐ 面白くない	
B.また開催してほしいか	☐ そう思う / ☐ そう思わない / ☐ 改善してほしい(具体的に)	
C.自ら発信することについて	☐ 既に発信している / ☐ 発信することに興味がある / ☐ 興味はない	
D.発信スキルを学ぶ機会や交流会があれば参加したいですか	☐ はい / ☐ いいえ	
質問6. 今回のアンケートの結果について知りたい方は連絡先をご記入ください。		
E-mail	SNS アカウントなど	

質問は以上になります。ご協力ありがとうございました。

②「再発見！関のいいところマッピング」の実施

アンケートと並行して、市民が知っている関市の良いところを可視化し、共有できる事業を実施しました。

設置場所・期間：

1. 本町BASE 8月23日（月）～8月29日（日）
2. わかくさ・プラザ学習情報館1階 8月24日（火）～9月5日（日）

再発見！ 関のいいところマッピング

わたしが知らないスゴ関は、きっとあなたが知っている

8/23(月)～9/5(日)
声を募集&マップ展示

あなたの「好き」は
いったい、どこ？

好きな場所・ヒト・モノ、みんなでシェアしましょう！
あなたの「関の推し」教えてください。

以下の場所と期間で、声の募集とマップの展示をします

本町BASE 8/23(月)～8/29(日)
わかくさ・プラザ 学習情報館1階 8/24(火)～9/5(日)

Webでも
募集中！

https://forms.gle/3h3vM4mouTyo0guswAJ

今こそ関市を
「味わいつくそう」

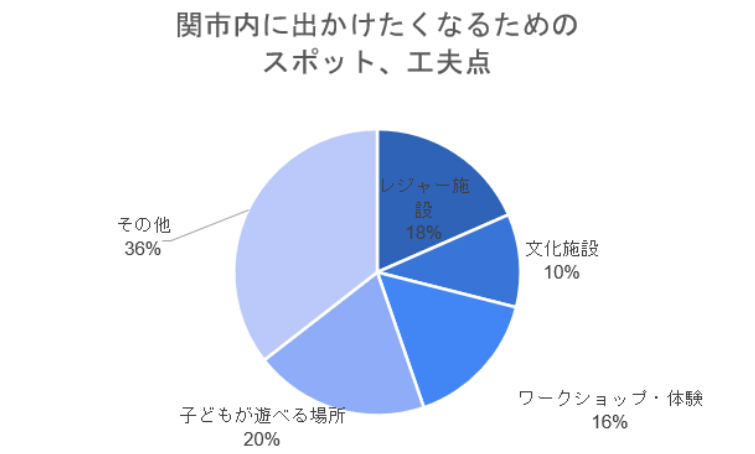
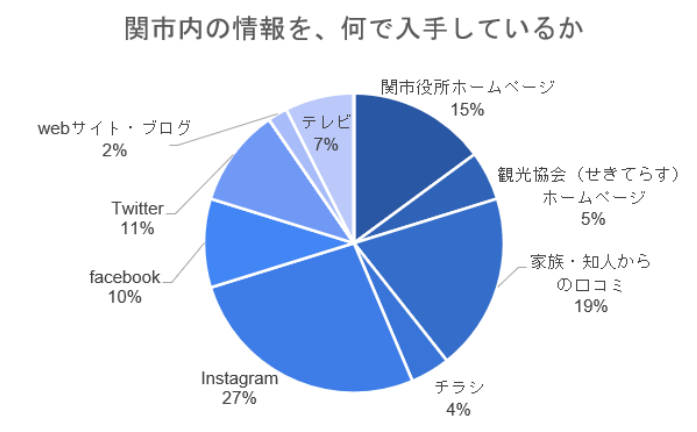
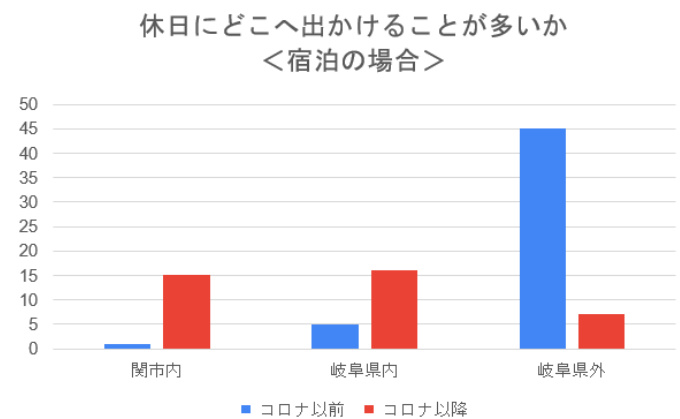
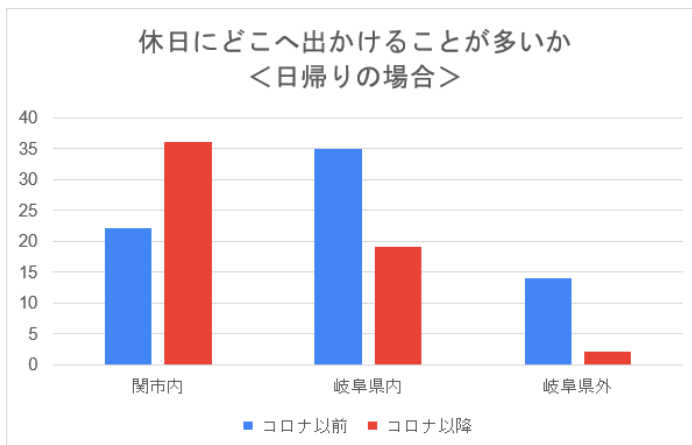
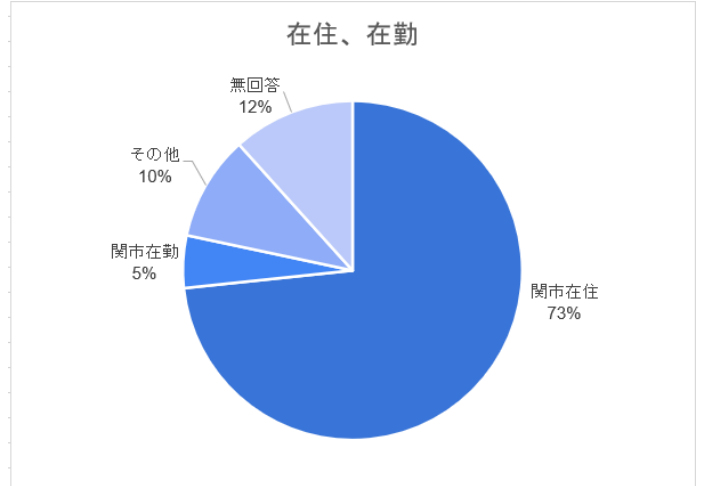
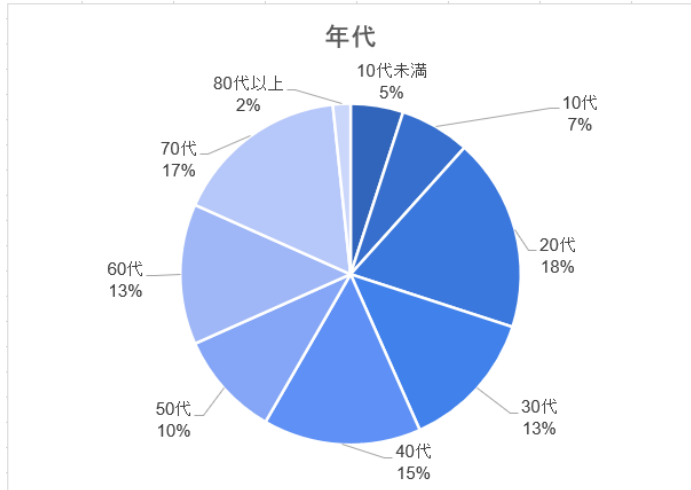
主催：第9期 関市まちづくり市民会議 観光チーム
お問合せ先：関市市民活動センター（関市千年町2-18-1）
TEL:0575-24-7772 FAX:0575-24-7660 MAIL:info@seki-siminkatudo.com



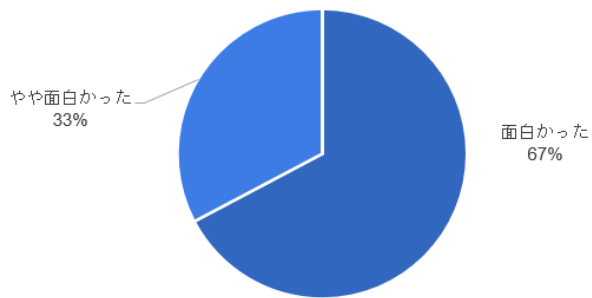
Ⅲ 実施結果

・アンケート結果

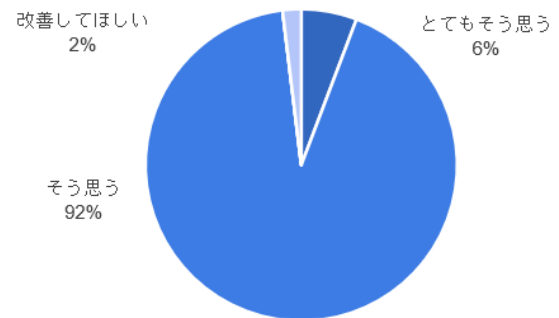
アンケート回収数： 61 件（紙面 47 件、WEB 14 件）



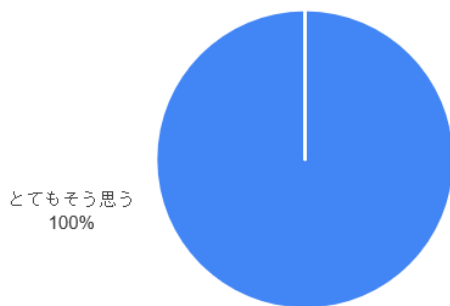
本イベントの趣旨について



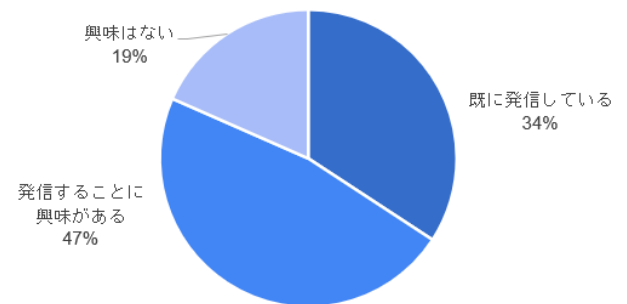
また開催してほしいか



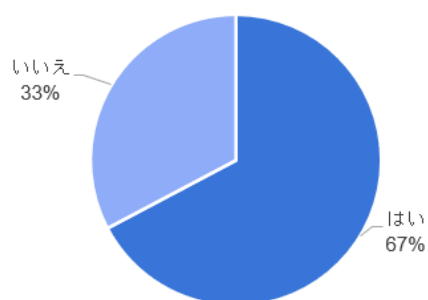
「市民が自ら発信」は必要だと思うか



自ら発信することについて



発信スキルを学ぶ機会や交流会があれば参加したいか



Ⅳ その成果と見えてきた課題

《成果》

① アンケート結果より

- ・幅広い年代からの回答がいただけた。
- ・情報収集源は、「WEB 上から」という回答が 8 割を超えていた。
- ・行政による発信だけでなく、個人の発信を見ている人が多くいたことが分かった。

② 実施事業より

- ・幅広い年代に参加してもらえた。
- ・市民が魅力的に感じる「関のいいところ」を可視化できた（食べ物など）。
- ・事業を面白いと思った人が 100%だった。
- ・発信することに興味がある人が 8 割、発信スキルを学ぶ機会や交流会があれば参加したい人が 7 割だった。

《見えてきた課題》

① より多くの調査件数が必要

今回はアンケートとイベントを並行して実施しましたが、市民の現状を知るためには、より多くの回答が必要です。個人レベルの調査ではなく、市の事業として位置付けたり、インセンティブを付けるなど、調査の質と量を上げる必要があります。

② 交通ルートも併せた魅力発信が必要

今回の調査で集まった関の魅力的な人、モノ、コトは、市街地から両ウィングまでたくさんありました。実際にそれらの場所に訪れるには、車以外にも、電車やバスを利用して訪れたい人もいると考えます。スポットの発信だけでなく、スポットを巡る交通ルートまで併せて発信すれば、市外の人を訪れやすくなると考えます。

③ 市民の発信の場やスキル向上の機会が必要

本来はこのイベントの結果から、市民自らが発信するようになるまでのステップが必要です（P22 の C を増やすための活動）。発信することに興味がある人が多くいるという結果から、「発信してみたい」と思えるためのスキルを学ぶ機会や、チームで役割を分担しながら、共同で発信する機会を設ける必要があると考えられます。

また、今回のアンケートやイベントの結果を市民会議メンバーで共有した際、初めて知る魅力的なスポットがあったり、思い出したりとたいへん盛り上がりました。このような、お互いの関の魅力を知り、交流する機会は、個人レベルの情報発信と併せて必要だと感じました。

V 提案と提案理由

提案 1	市民向けにどこに行っているかなどの調査をしてください！
提案する課	企画広報課
概要	対象：全市民 ・関市民が市内で遊びに行く場所、普段の情報入手方法や、情報発信に関心があるか。 ・関市を魅力的に感じているか、関の魅力を伝えようと思っているか。 などの調査を行ってください。

提案 2	市民による発信を支援してください！
提案する課	企画広報課
概要	右図のCの人を増やすために、以下のような市民の発信スキルを学べる機会や、交流の場を作ってください。 ①発信スキル（文章、カメラ）を学べる講座の開催 発信に興味のある市民に向けて、発信スキルを学ぶ講座を開催してください。 ②市民による発信チームの結成及び市民の発信の機会の提供 得意分野を生かしたチームを作り、WEBや現場で発信する機会を作ってください。 例：＜WEB 上＞ ・市民発信に特化した Instagram アカウントの開設 ・WEB サイト（移住定住ポータルサイト、せきてらす等）への記事投稿 ・WEB サイトでの市民ライターの紹介。すでに情報発信をしている人も紹介する（リンクの貼り付けなど）。 ＜現場＞ ・「せきてらす」や「関市役所」、「ふれあいセンター」等の市民が普段から多く行き交う公共施設や委託施設での設置 ③交流の場づくり ②で発信された情報をみんなで見て、交流する機会を作り、関市民が関の魅力的な人・モノ・コトを共有できるようにしてください。

提 案 の 理 由	提案 1 市民アンケートの一つである、「関市まちづくり通信簿」には既に居住意向や愛着の項目がありますが、関市を魅力的に感じているか、市内で出かける場所はどこか、その情報を何で入手しているか、情報発信に関心があるかという項目は現在ありません。 そのため、関市民の実態を知るための定期的なアンケートの実施を検討してください。 提案 2 市外の人にも関市の魅力を伝えるためには、市民の発信の質も向上する必要があります。現状は「発信に興味がある」と言っても、発信をしている人が少なかったり、注目されるような発信者になっているわけではありません。 行政がそのバックアップをすることで、そのような市民が実際に「発信する」ようになると考えます。また、市民と行政が協働して発信することで、市のイベントをより効果的に発信することができます。 そして、個々が持つ情報を共有できる場を設けることで、市民間のコミュニティが生まれ、「関の魅力を知らない」人が、「知っている」状態になることができると考えます。
-----------------------------	--

VI 今後の展開

発信のスキルが育成された市民と行政が協働して関の魅力発信に取り組むことで、次の様なことが期待できます。

- ・例えば、行政が実施する調査結果（提案 1 など）について、市民が事業を周知したり、調査結果を発信することで、関市に関心を持つ市外の人が増えると考えます。
- ・発信の協働によって市民のリアルな声を取り入れやすくなり、関の魅力が今のまま古びていくのではなく、時代に合った形でブラッシュアップしていけると考えます。
- ・市で行われている不特定多数に向けたイベント等にも、今回実施したマッピング事業などを活用しながらアンケートを回収することで、イベントの効果測定も出来ると考えます。

コロナ禍の今、関市内に目を向ける市民が増えつつあります。この時期だからこそ、関の魅力を知る機会に触れ、その魅力を発信する市民を増やし、行政と協働することで、市外の人を訪れたい関市が実現すると思えます。

関市出身者が市外から貢献できる仕組みを通してUターンにつなげる

私たちが目指す関のまちづくりの宣言文

私たちの目指す姿は、「関市出身者のリモートワーク等ができる人が、安心して故郷に戻り、貢献できる」関市です。

そのために、「関市出身の市外に住んでいる方が、関市外から貢献ができない」という課題に取り組むことにしました。

課題の原因は「ふるさと納税以外の貢献する仕組みがない、市民のニーズがわからない、出身者の専門家とつながりががない」ことと考えます。

これを解決するために、行政、企業、市民活動などの他組織の活動を踏まえ、私たちは「ふるさと貢献バンクの仕組み」を提案することで、関市の課題解決にもっとも貢献することができると考えています。

だから私たちは「ふるさと貢献バンクの仕組み」により、「関市出身者が関市外に住んでいても故郷に貢献できる」という関市を実現します。

I 取り組んだ課題

関市出身の市外に住んでいる方が、市外から貢献ができない

関市にUターンした人にアンケートを取った結果(2017年 NPO 法人ぶうめらん『関のUターン白書』)、Uターンする前の不安のほとんどは、「仕事への不安」であることが分かりました。また、一旦関市外に住むと、途端に、関市の情報が遮断されることが分かっています。

現状、すぐに関市に戻ってくることを促す施策は、難易度が高いと考えます。まずは、市外にいながらもふるさととの繋がりをつくることや、関市の仕事ができる環境を整えることが将来的にUターンにつながると考えました。

現状、関市外から、関市に貢献する仕組みは、ふるさと納税くらいしか存在せず、それ以外の貢献できる仕組みをつくる必要があると考えます。

【課題に対する取り組み】

このテーマにおける課題の原因は何か、部会メンバーで議論しました。

部会第1回	それぞれの興味を共有と議論
部会第2回	みんなの就職サポートセンターにヒアリング
部会第3回	対象者のしぼりこみ
部会第4回	目指す姿
部会第5回	目指す姿と、課題の深堀り
部会第6回	事業を考える
部会第7回	テスト事業の企画
部会第8回	テスト実施
部会第9回	政策提案を考える

II 取り組んだ活動

①関市出身者が自身のスキルで地元で貢献できる仕組みづくり（仮

名：ふるさと貢献バンク）（案）についてのアンケート

1)アンケート対象者

関市出身で、現在市外に住んでいる方

2)アンケートの期間

令和3年8月～9月15日

3)回答数 16名

■ご職業・資格()

質問1. 「ふるさと貢献バンク」があったら、あなたは参加してみたいと思いますか。 ☐ 参加したい / ☐ やや興味がある / ☐ あまり興味はない / ☐ 参加したくない	
「参加したい」「やや興味がある」を選んだ方へ 質問2～8 にお答えください。 「あまり興味はない」「参加したくない」を選んだ方は、これでアンケート調査は終了となります。 ご協力ありがとうございました。	
質問2. どんな依頼があれば参加したいですか。(具体的な内容/対象者(誰から) をご記入ください。)	
質問3. ご自身が提供できるスキルや知識を教えてください(仕事・趣味など 複数回答可)。 また、オンラインでの対応の可否も教えてください。	
スキル・知識	オンライン対応(可・不可)
	可 / 不可
	可 / 不可
	可 / 不可
質問4. 提供できる頻度・時間を教えてください。	
提供できる時間帯	☐ 平日(午前 / 午後 / 夜間) / ☐ 休日(午前 / 午後 / 夜間)
提供できる頻度	☐ 週 1 回以上 / ☐ 週 1 回 / ☐ 月 1 回 / ☐ 半年に 1 回 / ☐ 年 1 回
質問5. 依頼を受ける場合、有償を希望しますか。また、希望する金額も教えてください。	
☐ 有償を希望する(金額: 円程度) / ☐ 無償でよい	
質問6. 依頼の報酬が「せきチケ(関市内で利用できる地域経済応援券)」の場合でも、依頼を受けますか？	
☐ 受けたい / ☐ 受けてもよい / ☐ 好ましくない / ☐ 受けない	
質問7. 評価制度(依頼者からのフィードバック)の有無について、どう思いますか。 また、どのような方法で評価(フィードバック)を受けたいですか。	
☐ あった方がよい / ☐ 好ましくない	

評価方法の案	
質問8. この仕組みにおいて、運営者に求めるサポートや、実施する際の懸念点を教えてください。	
必要なサポート (複数回答可)	☐ 依頼主との間の調整役 / ☐ トラブルが生じた時の補償体制 / ☐ 当日に付き添ってほしい / ☐ 依頼募集の告知 / ☐ 出身者同士の情報交換の場 / ☐ その他()
懸念点	

②ふるさと貢献バンクのテスト実施

実際に、関市出身の専門家と、市内小学生をつなげて、テスト的に実施しました。

1) 参加者

専門家:野田岳仁さん(法政大学現代福祉学科准教授/水の専門家/安桜小学校出身)

相談者:Wさん、安桜小学校1年生

2) 日時

令和3年8月18日 17:30～18:30

3) 方法

Zoomにて

4) 内容

■テーマ:水に関する夏休みの自由研究をやりたい。

■内容:水に関する自由研究について、野田先生から2種類の提案があった。

①自分が使っている水がどこから来て、どこに排水されていくのか、調べる。

②どうして井戸の水が飲めるのか。その仕組みをペットボトルで自作して調べてみる。



Wさんは、自宅に井戸があることで、②の方に興味を持ち、②に取り組むことになりました。その後、実際に作ってみたそうです。

5) 感想

野田先生: 普段から、水の自由研究の話は多いので、全然負担はないです。自分の出身の小学校の子どもの役に立てると嬉しい。

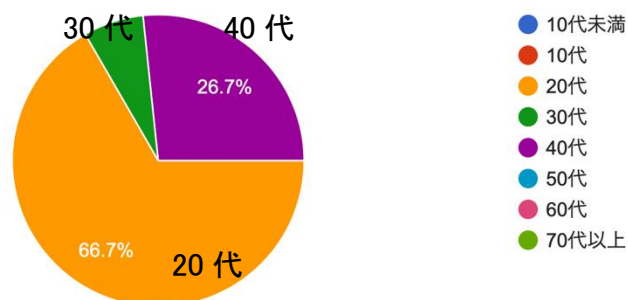
Wさん: まだ自由研究を決めていなかったもので、教えてもらえて嬉しい。



Ⅲ 実施結果

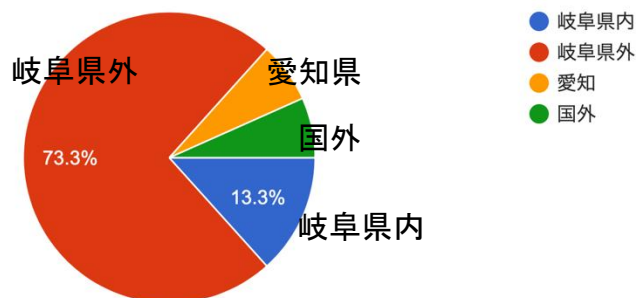
年代

15件の回答



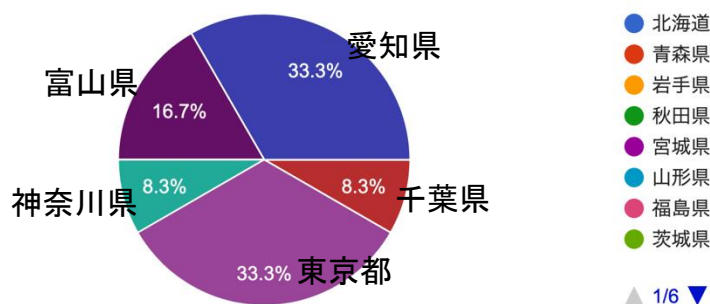
あなたは現在どちらに在住していますか。

15 件の回答



「岐阜県外」を選んだ方は、都道府県を教えてください。

12 件の回答

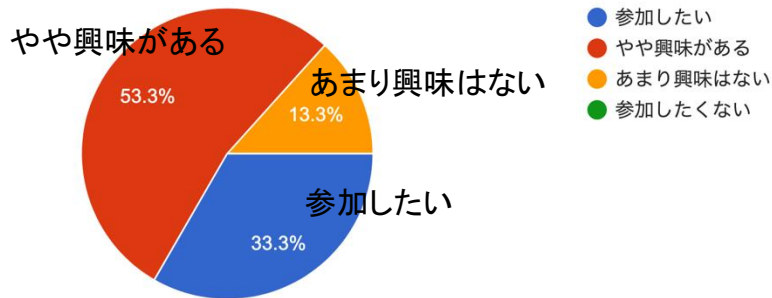


職業・資格を教えてください

会社員、コンサルタント、大学生/株式会社山秀 広報(世界のナイフショールーム山秀 YouTube 制作)、理学療法士、デジタルマーケティング、営業 FP2、会社員・データサイエンティスト、製造業、物流プランナー、国際協力・開発コンサルタント(プロジェクトマネジメント、英語、参加型コミュニティ開発等)(現在、社会福祉士の資格取得に向けて勉強中)、テレビ番組制作、薬剤師、会社員エンジニア

「ふるさと貢献バンク」があったら、あなたは参加してみたいと思いますか。

15 件の回答



■自分のスキルが役立つと思える依頼

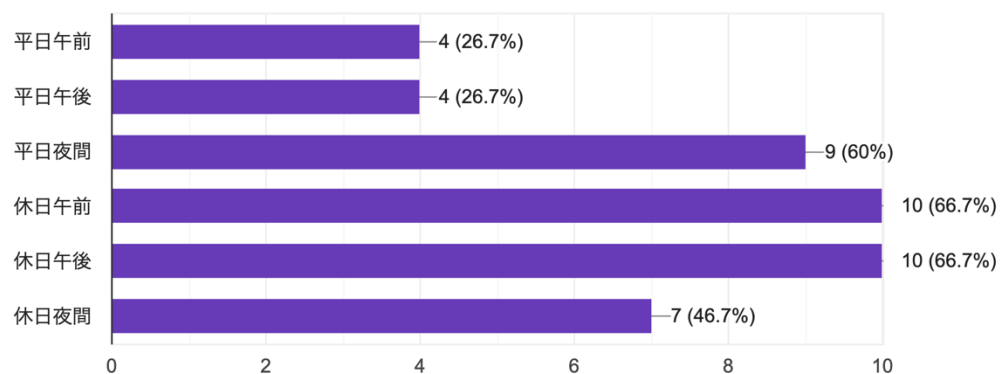
- ・企業動画撮影・編集 YouTube の始め方・伸ばし方の相談 動画制作の相談(動画コンテンツのためのおすすめカメラや編集ソフト、パソコンなどの相談)
- ・人物やモノの写真撮影
- ・身体作り系
- ・集客に苦戦している個人店や零細企業さんに対して、デジタル周りのマーケティング提案の実施
- ・SNS にて動画で PR したい企業や団体さんに対して、簡単な動画撮影及び編集
- 保険の依頼があれば誰でも ペット保険以外であれば
- 内容 ・データ事業立ち上げ ・データ分析による意思決定、効果検証などの支援 対象者 ・関市で影響力のある事業者、団体、自治体等 ・関市発の熱心なベンチャー・スタートアップ企業等
- ・こどもたちとの交流(遊び)
- ・関市内の生産物の全国販売に関わる物流サポート
- ・会社の業務経験を活かせるようなこと

■興味があるもの

- ・ホームページ作成等
- ・時間をかなり割かなければいけない依頼以外は、何でも。
- ・各種映像制作
- ・薬の説明、大学受験、進路選択など
- ・ものづくりの会社からのエンジンの設計等の依頼
- ・公式ブログ、ホームページの作成
- ・英語、会議の進行・調整、社会福祉関連の事等
- ・薬の知識、勉強の仕方

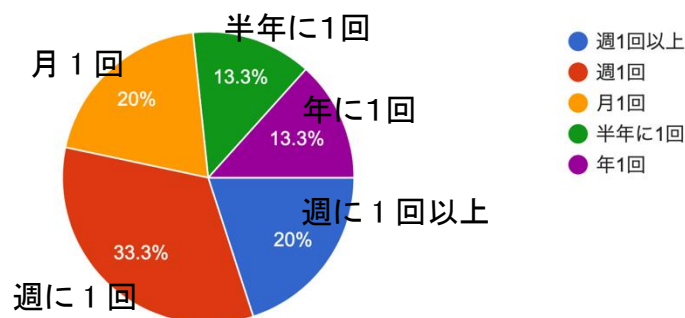
提供できる時間を教えてください。（複数回答可）

15件の回答



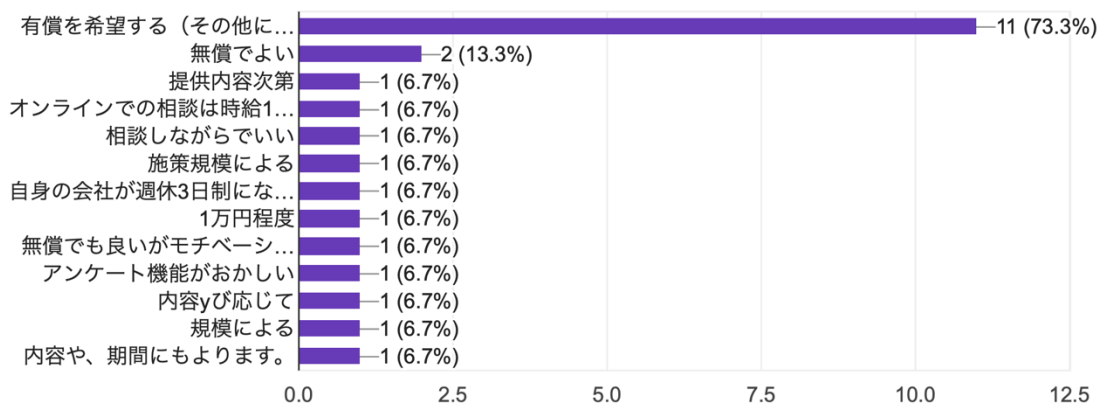
提供できる頻度を教えてください。

15件の回答



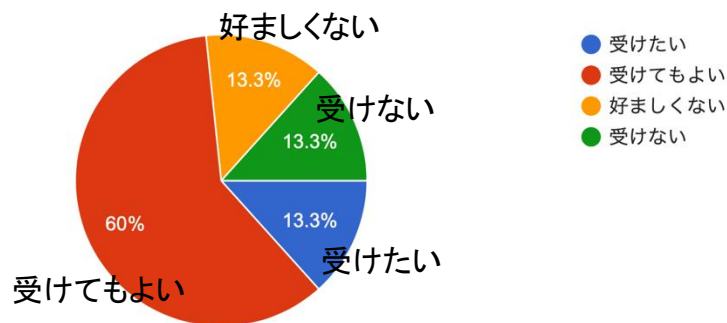
依頼を受ける場合、有償を希望しますか。また、希望する金額も教えてください。

15件の回答



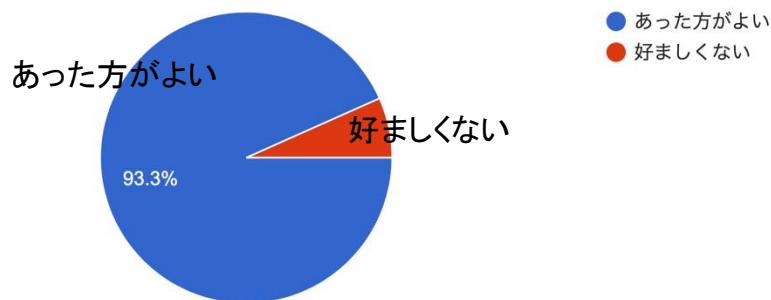
依頼の報酬が「せきチケ（関市内で利用できる地域経済応援券）」の場合でも、依頼を受けますか？

15 件の回答



評価制度（依頼者からのフィードバック）の有無について、どう思いますか。

15 件の回答



また、どのような方法で評価（フィードバック）を受けたいですか。

Google フォーム等の結果をお知らせいただくという形など

なんでも可

特にない

メール、ライン

報酬に反映

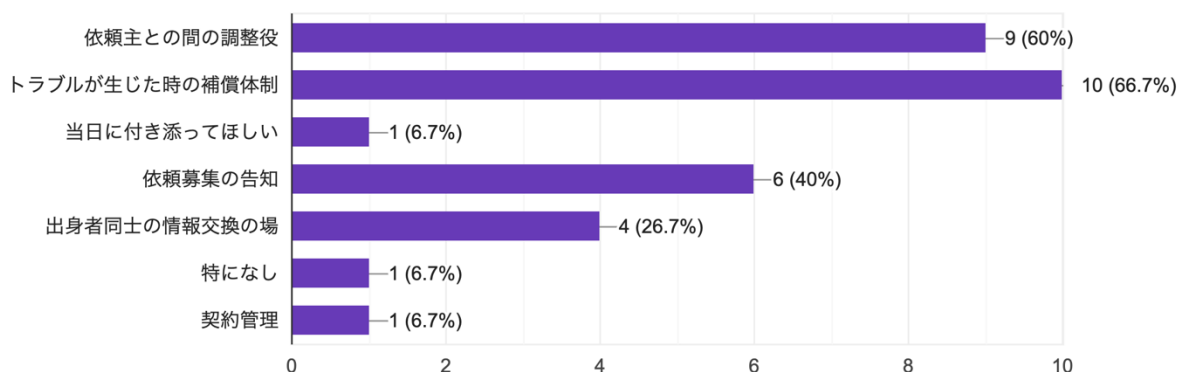
集計した物をデジタルで

FtF で意見を聞きたい。要望を拝聴し次に反映させる

どのような依頼かによって評価方法は異なって良いと思いますが、例えば、サービス利用者に簡単なウェブアンケート(貢献した人が聞きたい事、自身で作成)に回答してもらい、業務依頼者はアンケートに回答するように促す、等

この仕組みにおいて、運営者に求めるサポートを教えてください。（複数回答可）

15件の回答



この仕組みにおいて、実施する際の懸念点を教えてください。

- ・痛みや疲れが生じる可能性
- ・保険の場合、今回の趣旨で依頼交流は難しいため誰からどんな依頼に関しては心からの願いでしかないのでは申し訳ございません。ですので、私の職業でない場合を想定してその他の質問を考えてみました。依頼を受ける側がお断りするときの対応でトラブル等が生じないかが不安です。リモートやメールでのやり取りだと断る側は連絡を経てほしいので、依頼者からのお断りに対応できればとてもいい取り組みだと思います。とても感心しております。ありがとうございます。是非、良い形で頑張ってください。
- ・関市から転出している人にとっては、関市でしか使えないせきチケなどがインセンティブになりにくく、魅力を感じない。
- ・単発の講義や壁打ちだけなら問題ないが、実際に地元に貢献する効果を出すためには継続的な関係を結ぶ必要があり、その場合における契約内容などの均一的な管理を運営者にしてほしい。
- ・現状不明。
- ・関わる人間全てに活動のメリットがあるかどうか。
- ・あのデザインだけでは判断できない。
- ・三者間の契約内容(業務委託等?)
- ・貢献する方が関市の公共益のために貢献したい場合、依頼の内容が個別(自己)利益のためであると上手くいかないと思うので、依頼内容のどこが公共益で、どう関市に貢献できるのかという線引きのルール作りをしないと難しいのかなと思います。(もしくは、公共性が高い依頼と、個別性(益)が高い依頼とを分けて、貢献者が選べるようにしても良いと思います。)

IV その成果と見えてきた課題

〈成果〉

- ・外に出た人によるサービス提供のニーズはある

86.6%の人が、「参加したい」、「やや興味はある」と答えており、ニーズがあることがわかりました。

- ・依頼したい市民側のニーズがまだ不明だが、企業側のニーズはありそう

今回の取り組みでは、市民側のニーズ調査は行ないませんでしたが、同様の「ふるさと兼業」のサイトからみると、岐阜県内の企業から60ものプロジェクトが登録されており、兼業人材を望む企業側のニーズは存在するといえます。

〈課題〉

- ・報酬ありを望む人が多く、報酬の設定方法を検討する必要がある

有償を希望する人が73.3%であったことから、兼業、副業としての位置付けを希望する人が多いといえます。当部会としては、実証実験のように、小学生をはじめとする子どもからの無償の依頼と、企業等からの有償の依頼の両方を想定していたため、この制度設計をどのようなべきか再考する必要があります。

「福島県パラレルキャリア人材共創促進事業」では、企業側の課題を抽出したものをプロジェクト化し、そこに費用等も記載し人材を募集している。そういったプロジェクト側からの募集方法が望ましいのではないのでしょうか。

- ・web等に掲載するだけでなく、マッチングを促す企画をしていく必要がある

関市ですでに実施している類似事例として、アーティストバンクがあります。基本的には、関市にゆかりのあるアーティストをwebや広報等に掲載、紹介し、呼びたい人がいればマッチングするという方法です。しかしながら、ふるさと貢献バンクについては、この方法ではうまくいかないと思われます。今回の実証実験でも、市民側の困りごとを抽出したものをプロジェクト化しつつ、実際にその専門家へつなげる「企画」があれば実現できます。上記福島県の事例や、ふるさと兼業の事例でもわかるように、企業や市民側の要望を明確にした上でプロジェクトにしていくノウハウが必要です。

- ・職業紹介業の資格が必要ではないか

この取り組みを実施するためには、厚生労働省の有料職業紹介業、無料職業紹介業の資格を有する必要があると考えます。

V 提案と提案理由

提案	関市の出身者が自身のスキルで地元貢献できる仕組み(仮名:ふるさと貢献バンク)(案)」をつくってください。
提案する課	企画広報課、商工課
概要	「ふるさと貢献バンク」とは、上図の仕組みのように、関市の出身者が、地元から離れていても、自らのスキルや知識・経験を地元の人の為に提供できる仕組みです。関の企業や市民活動などにおいて、関市出身者がアドバイスを行うことや、そうした人材が兼業・副業として企業の業務を請け負うなどといった仕組みをつくり、遠方からでも地元へ貢献できるように考えています。 【運営方法】 ・マッチング担当チームを組織し、市民のニーズの掘り起こしや、出身者の専門家の掘り起こしを行う。 ・市民、企業側の困りごとをプロジェクト化する。その際、同時に報酬も決定する。(無償での募集も含める) ・そのプロジェクトを遂行してもらえる可能性のある関市出身の専門家に直接声かけを行うなどの取り組みを行う。

	・運営初期段階においては、人材や案件が少なくなることが予想されるため、専門家のスキルに応じて市民や企業で実現可能な案件を形成していく企画も必要となる。 ・報酬の何割かをせきチケで支払うことで、関市に帰省した際に使ってもらえるようにする。
必要経費	・web サイト製作費 ・せきチケ ・人件費 ・広報費等

VI 今後の展開

- Uターンの最大の不安は仕事の不安です。まずは、ふるさと貢献バンクにより、自分も関市で仕事ができる！と感じてもらい、関市に戻って就職や起業をしてもらうことにつなげていきたいと考えます。
- この仕組みを活用した後に起業するなら助成金を出すといった移住に向けた特典をつくり、Uターン、Iターンとリンクさせることが望ましいです。
- 依頼の完了後、その事例をwebサイトに随時掲載することで、このシステムの信頼性の向上を図る必要があります。
- 関出身者以外の方でも参加できる仕組みに発展させ、将来的には、Iターン希望者の増加につなげていきたいと考えます。

高齢男性が自分に自信を持ち、
地域とつながる関市を

私たちが目指す関のまちづくりの宣言文

私たちの目指す姿は、

「地域との関わりが少ない傾向にある定年後の高齢男性が活躍できる」

関市です。

そのために、「定年後の高齢男性の引きこもり

（社会との関わりが少ない）」という課題に取り組むことにしました。

課題の原因は「特技・技術が埋もれている、集まる場に集まらない、

退職後の引きこもり・活動範囲の縮小」ですが、

今回は特に「特技・技術が埋もれている」に対して取り組みます。

これを解決するために、行政、企業、市民活動などの他組織の活動を踏まえ、私たちは「2世帯・3世帯家族のつながりが深い」という強みを生かし「おじいちゃん自慢川柳」を提案することで、関市の課題解決にも

っとも貢献することができると考えています。

だから私たちは「おじいちゃん自慢川柳」をすることで、

「地域との関わりが少ない傾向にある定年後の高齢男性が活躍できる」

関市を実現します。

I 取り組んだ課題

定年後の高齢男性の引きこもり（社会との関わりが少ない）

【その理由と根拠】

このテーマにおける課題の原因は何か、高齢福祉課を交えながら、部会メンバーで議論しました。私たちは「2世帯・3世帯家族のつながりが深い」ということから、活用者側の視点をもって課題を考えました。

1. 特技・技術が埋もれている

関市には高齢者の憩いの場や活躍の場として、「ふれあい・いきいきサロン」や「老人クラブ」、「(公社) 関市シルバー人材センター」などがあります。しかし、高齢福祉課によると、サロンの参加者の多くは女性で、男性参加者が少ないことが課題となっています。

一方、中部学院大学で開催されている「中部学院大学シティカレッジ」などの講座・セミナーの男性参加者は多く、また、ほかにも「関おもちゃ病院」など、高齢男性による子どものおもちゃを修理する市民活動団体などもあります。これらの傾向から、男性が社会とつながるためには、「目的」と「役割」が明確な場が必要です。

現状は社会とつながっている男性が少ないことから、自身が持つ特技・技術が埋もれているのではないかと考えます。また、講座の参加者としてだけでなく、講師にもなりうるような人の発掘も必要です。

2. 集まる場に集まらない

上記のように、「目的」や「役割」が無ければ参加しにくいという、近くで活躍できる場がないことも課題です。例えば、通いの場事業（サロン）は、社会福祉協議会や包括支援センター、民生委員が運営補助する地区サロンのほかにも、個人が主催するものもありますが、全てが自治会単位にあるわけではありません。そのため、憩いの場や活躍できる場に足を運ぼうとしても、距離があり、参加しづらいことが考えられます。

3. 退職後の引きこもり、活動範囲の縮小

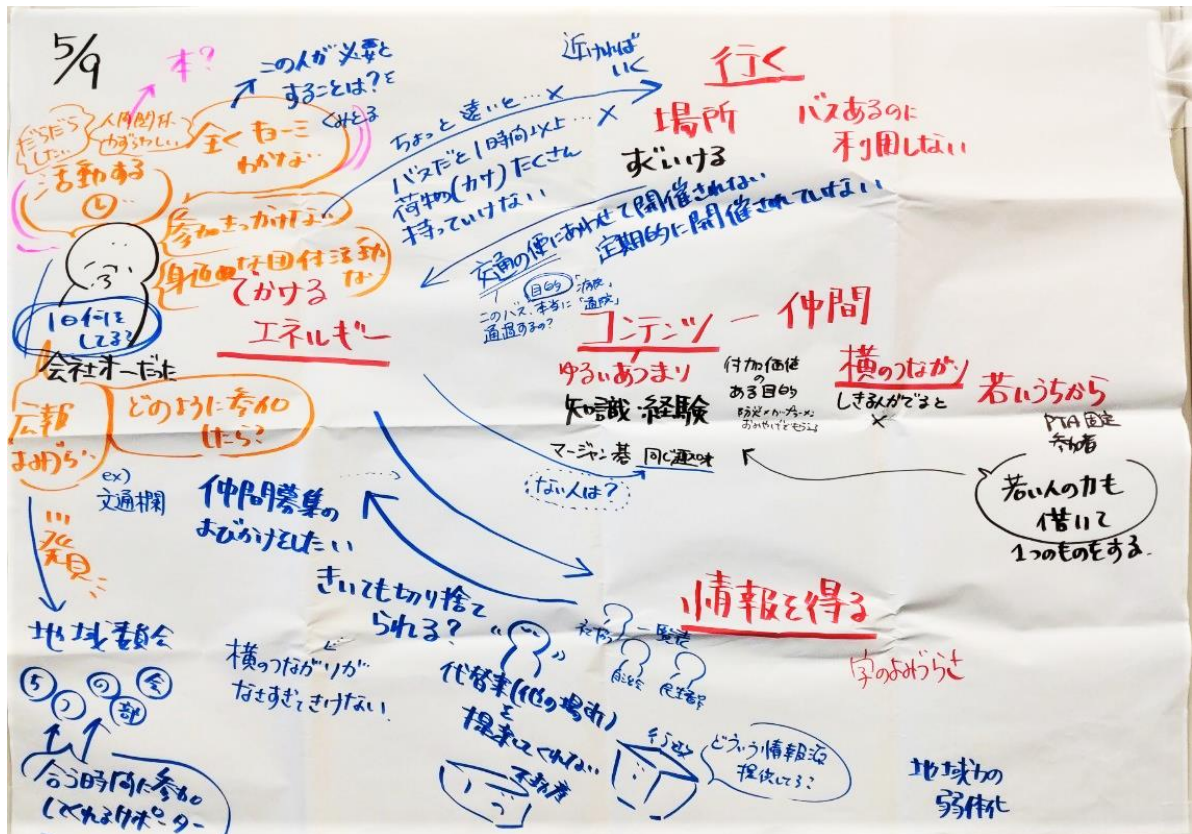
日頃からボランティア活動や、地域活動に参加していない場合、退職後に活動する場がなくなってしまう。活動する場がなくなると活動する意欲も下がり、家に引きこもってしまうようになるため、心身共に活力がなくなり、活動範囲が縮小してしまいます。

これらは本人だけでなく、社会から見ても、心身の健康の低下に伴う要介護リスクの上昇が懸念されます。2030年までは関市も後期高齢者が増加する傾向にあり、いきいきとした高齢者が増えなければ、地域で支える負担が大きくなることが予想されるため、関市全体で

チーム「ダイバーシティ」

取り組む必要があります。

以上を踏まえ、今回は、「特技・技術が埋もれている」に対して取り組み、特技や技術を持つ高齢男性の情報把握及び活躍できる仕組みづくりを考えました。



高年齢男性における問題構造図

Ⅲ 実施結果

①関市、他市の現状調査

【関市】 高齢福祉課、社会福祉協議会へヒアリングしました。

高齢者の支援策

1. サロン運営の支援

・関市住民主体の通いの場事業補助金交付事業

月2回以上、高齢者の通いの場の活動に取り組む団体に対して、活動を支援するための補助金を交付している。なお、対象経費は、講師に対する謝礼及びその招へいに係る交通費となっている。

・活動助成金の交付

各支部社協を通じて、会場使用料やお茶代、講師謝礼等の補助として、参加者1人あたり200円の助成金を交付している。

・サロン活動の人的支援

関市地域包括支援センターのCSW（コミュニティ・ソーシャル・ワーカー）及び生活支援コーディネーターが住民とサロンの運営をサポートしている。なお、CSWは6つの包括単位に各1名ずつ配置されている。

・ミニサロン化

地域単位のサロンでは、講師代や場所代など費用が掛かるため、できるだけ誰もが行けるように、ミニサロン化を進めている。なお、ミニサロンでは小さなことしかできないという面もあり、地域の団体、企業、住民等と共に企画会議している地域もある。

・サロン運営の勉強会の開催

昨年度、新型コロナウイルス感染症の影響により開催できなくなったサロンが相次いだことを受け、社会福祉協議会主導で、「サロン再開に向けて」をテーマに運営者との勉強会を開催し、高齢福祉課、包括支援センター、社協、支部社協、民生委員、サロン運営者（月1回以上実施しているサロンをピックアップ）等が出席した。なお、今年度は6つの包括単位での勉強会の開催を予定している。

また、サロン運営者には「地域ふくし活動のサポートブック」を配布し、時間短縮や二部制、予約制で再開するなどのアドバイスをしている。

・人材養成講座

今年度、高齢福祉課で実施を予定している講座。困っているサロンのお手伝いができるような人材を育成することを目的としている。

2. 高齢者のデータ収集について

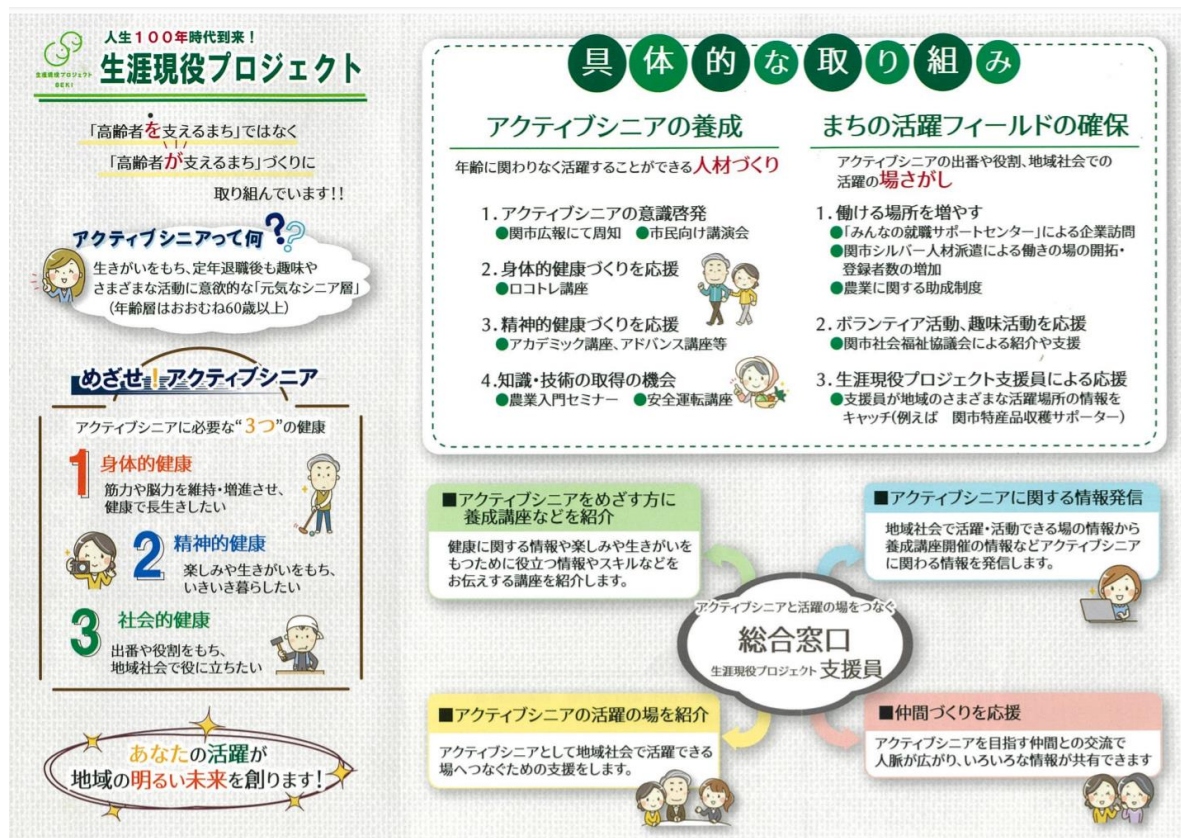
・「地域診断」の実施

対象となる地域のきめ細かい観察や既存の保健衛生統計を通して、地域ごとの問題、特徴を把握する「地域診断」を実施している。そのほか、今年度は介護保険を利用していない65歳以上の高齢者に対して全数調査を行う予定であり、結果によって対象者に個別アプローチも考えている。

3. 高齢者の社会参加について

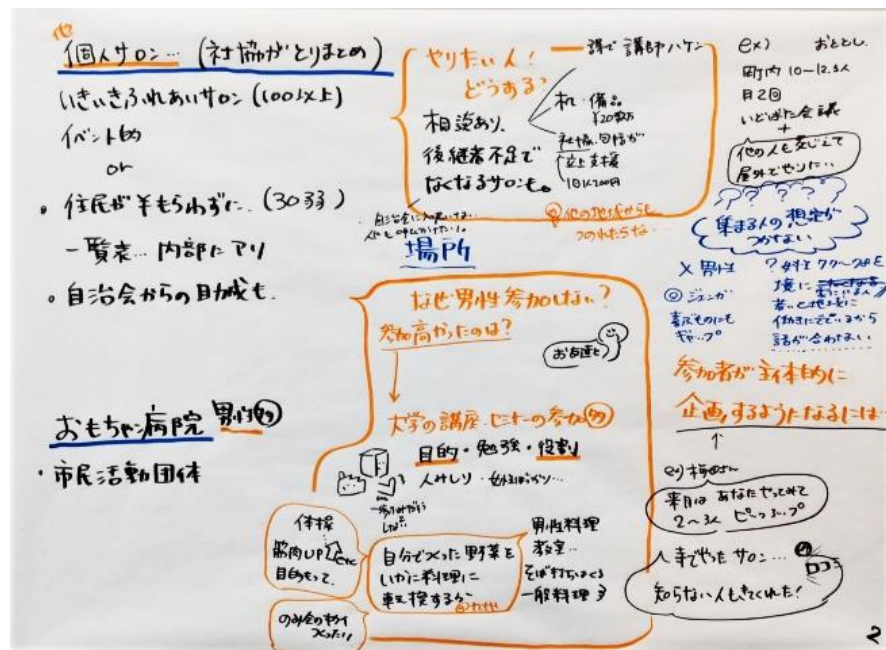
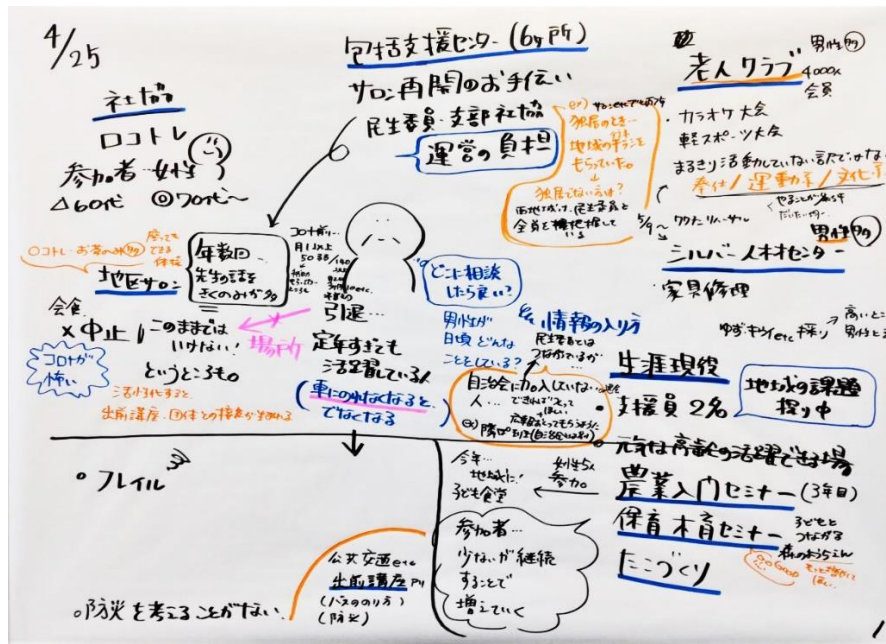
・生涯現役プロジェクト（アクティブシニア）

アクティブシニアの活躍を促進するための教室や講座等の開催、生涯現役プロジェクト支援員等を通じた活動に関する相談やコーディネート等を実施している。また、「関市みんなの就職サポートセンター」において、関係機関との連携のもとで高齢者の就労を支援している。



・シルバー人材センターとの連携

市の福祉事業における活用を進めるなど受注拡大の支援のほか、会員の専門的知識や技能の習得のための講習会や研修会の開催に協力している。



高齢福祉課へのヒアリング内容

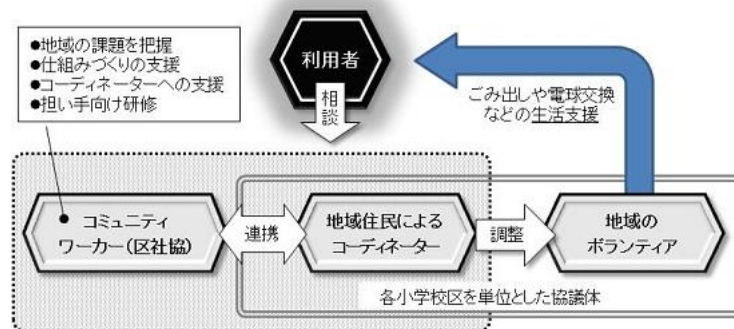
【他市】高齢男性の活躍の場を調査しました。

・名古屋市地域支え合い事業

(<https://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/page/0000076349.html>)

学区において相談や調整を担う「ご近所ボランティアコーディネーター」を核に、ちょっとした困りごとを抱えた高齢者とボランティアとして地域の中で手助けする元気な高齢者等をつなぐ仕組みづくりを推進。区社協のコミュニティワーカーと連携しながら、地域住民によるコーディネーターが利用者の相談を受け、地域のボランティアと調整して、ごみ出しや電球交換などの生活支援を提供している。

→自治会単位で、高齢男性に頼みごとが出来る。地域の範囲が狭いので、仕事を頼みやすい。



・民間を巻き込んだサロン

喫茶店や銀行の会議室、スーパーでサロンを開催する地域がある。

→「いつも寄る場所」で開催することで、行くまでの負担を軽減することができる。

・民間図書館でのボランティア参加 (<https://www.infosta.org>)

千葉県のNPO 法人情報ステーションが運営主体する民設民営の公共図書館。地域住民から本を寄贈してもらい、商店街の空き店舗や空き家、商業施設や老人ホーム、マンションの共有部など、ちょっとしたスペースに本棚を置いて並べ、その管理は主に近隣から募ったボランティアにて行う。ボランティアは図書館に通う男性へ直接声掛けして参加を募っている。

→普段行く場所でボランティアすることで、生きがいを提供。

・メンズカレッジ (<http://www.medias.ne.jp/~misigase/index.html>)

大府市会館にて開催されている講座で、仕事中心だった男性が、「生活自立」「健康」「地域参画・仲間づくり」をテーマに、楽しく学べる内容となっている。

→男性のみのため、参加しやすい。

・KIKIGAKI 甲子園 (<https://www.kikigaki.net>)

高校生が、日本のさまざまな地域で暮らす森・川・海の名人を訪ね、一対一で「聞き書き」するプロジェクト。

→地域で活躍する高齢男性の掘り起こしにつながる。

・広島県呉市のフレイルサロン

(<https://www.city.kure.lg.jp/soshiki/117/202107hureiru.html>)

将来の介護を見据えて、ロボットスーツを活用してフレイル予防に特化したサロンを開催。奥さんが男性を連れてきて参加。

→目的が分かりやすいサロンで、男性が参加しやすい。

②おじいちゃん自慢川柳

応募総数 中学生の部 6 名 (12 句)、一般の部 13 名 (30 句)

優秀賞

【中学生の部】

富士山を 毎年咲かせる 菊名人

川柳の解説：

毎年懸崖菊を作っていて、その中でも富士山の形をした菊は、2 色の菊を使って雪と山をイメージして作っている。

富士山の形を作る時は、花が咲いていないので、私にはわからないけど、菊名人のおじいちゃんはその見分けがついているので、富士山に雪が積もったような作品になっている。

【一般の部】

鮎捕りで 祖父の魂 河宿る

川柳の解説：

祖父は鮎捕りが得意で、手伝いに付いて行くが、河の中では、80 歳とは思えないほど、軽快な足取りで歩く姿が、とてもカッコいいです。

その他の句

【中学生の部】

知らん人 見に来るくらい 菊きれい
働きに 出掛ける時は 60 歳
おじいちゃん 会社に行けば 社長さん
おじいちゃん どこまで行くの 家あそこ
おじいちゃん ハチの巣退治 平気だよ
白衣着て 本格的な マッサージ
ピカピカの おでこにはりつく ビール缶
おじいちゃん 必ず言うよ また来てね
じいちゃんの 誰でも癒す ゴッドハンド
今になり YouTube にはまる おじいちゃん
作るのも 修理も得意 憧れだ



その他の句

【一般の部】

道端の 草刈りの跡 じいちゃんだ
大きな手 わたしを包む 守り神
弾けそう 愛情詰まった 夏野菜
肩に乗せ 私を運んだ ベビーカー
鮎捕りは 今だに現役 八十歳
口癖は 今年で最後と あゆ解禁
女子プロに 負けじと振って 腰痛め
穏やかで 笑顔絶やさぬ 好々爺
カメラ手に 中池周りで 友が増え
ウオークと ラジオ体操で 元気人
DIY 家人も喜び 楽しけれ
扇風機 修理が出来て 回りだし
物忘れ 笑ってごまかす 八十四歳
喜寿迎え 今でも現役 畳屋さん
じいじの工具 引っ張り風の 師走かな
じいちゃんの 白いパプリカ ほんとだよ
じいちゃんの カジまんの 一輪車
63年 まだまだ現役 やっとるわ
若い頃 総裁賞受け まだやっとるわ
おじいちゃん 物を作るの とくいです
おじいちゃん いつかいこうね さかなつり
じいちゃんが 作った野さい 世界一
我が人生 心豊かに 世のために
誰がために 何ができるか おじいちゃん
目ざとくて 口うるさくて 耳遠し
好きになれ 笑い笑わせ ボランティア
ヤル気だす ボランティアなら できる俺
趣味をもて 君の人生 倍となる
ナタ彫りで 我が人生 卒寿すぐ



応募者からの感想

- ・改めておじいちゃんがすごい人だなってわかりました。
- ・おじいちゃんへの気持ちを川柳にできる機会があり嬉しかった。
- ・おじいちゃんの凄さを確認できる機会になり、ありがたかった。
- ・おじいちゃんのがあるなら、おばあちゃんの自慢川柳もぜひお願いします。
- ・この歳になって文章などとてもとても思っていたましたが、言葉遊びのつもりで応募しました。

Ⅳ その成果と見えてきた課題

①関市・他市の取り組みより

《成果》

- ・他市の取り組みは、高齢男性を「集める」のではなく、高齢男性が「行きやすい」・「参加しやすい」場づくりに着目しています。

《課題》

・様々な取り組みが行われているが、サロンに参加する男性は少ない

ヒアリングを通じて、高齢福祉課としても高齢男性の参加が少ないことに課題を感じており、試行錯誤していることが分かりました。このことから、サロンという形式以外にも、高齢男性が「行きやすい」・「参加しやすい」と感じられる動線づくりが必要と考えられます。

・活躍の場づくりにも工夫が必要（シルバー人材センター）

高齢者の活躍の場として、シルバー人材センターが挙げられますが、場所が限定的で、通える人も限られてしまいます。また、地域のニーズが集まっていないことや、中間マージンが発生することなども、高齢男性の活躍の場としての課題が感じられます。

②おじいちゃん自慢川柳の実施結果より

《成果》

- ・家族との関わり、人柄が見えた。
- ・おじいちゃんに気持ちを伝えるきっかけとなった。
- ・若い世代も、人に関心を持つことができた。
- ・他のシニアのことを知り、自分も頑張ろうと思える。
- ・地域に関心を持つようになる。

《課題》

・決まった時期に間口を広げて募集（今回はPR不足）

今回の募集は、中学校へのチラシ配布や市ホームページ、あんしんメール、関市市民活動センターのSNSを活用して周知しましたが、今後は十分な募集期間を設けるとともに、地域住民が参加しやすいよう、地域イベントや企業とのコラボレーション、国語の俳句の授業など、学校の教育カリキュラムとの連携をすることで、より多くの情報が集められると考えます。また、参加賞をつけることや、発表の仕方もより広く住民に伝わるよう、市のホームページや広報、SNSなどを活用することもよいと考えます。

- ・ **本人からの投稿も OK に**

企画当初は、高齢男性自らが応募することは少ないと考えていましたが、ご本人からの応募もありました。自薦も含めることで、意欲的な方が見つかりやすくなり、地域での活躍に声をかけやすくなると考えます。

- ・ **家族だけではなく、近所のシニアも対象にする**

より多くの情報を集めるためには、家族からの情報提供だけでなく、近所や地域で活躍する人の情報収集も必要です。また、応募者は関市内だけでなく、市外に住む人からも募集することで、より情報が集まると考えます。

V 提案と提案理由

提案 1	高齢男性の掘り出しをするため、「おじいちゃん自慢川柳」を開催してください。
提案する課	高齢福祉課
概要	今回の実施事業のような、高齢男性の情報収集を目的とした事業を開催してください。 また、本人だけでなく、家族や近所、学生等から募集し、より多くの情報を集めてください。 そして、集まった川柳をもとに、対象者に特技や、地域への貢献の意向など詳しくヒアリングし、活躍の意向がとれた高齢男性は、提案②の技術の部活動に登録してください。

提案 2	技術の部活動をつくってください。
提案する課	高齢福祉課
概要	高齢福祉課で考案しているアクティブシニアバンクの一つに、高齢男性の活躍の場として、チームで動ける「技術の部活動」をつくってください。高齢福祉課が音頭をとって、DIY や農業、修理作業など、提案③で集められたニーズをつなぐ役割を果たしてください。また、この活動があることを、退職後の男性にも周知できるよう、保険年金課やハローワーク、商工課「みんなサポ」と連携して案内してください。

提案 3	提案②につなげるために、部活参加者の自宅近くで、地域の困りごとを集約してください。
提案する課	高齢福祉課
概要	自治会程度の範囲にある保育園や小中学校、企業、市民活動団体からの活動のニーズを収集し、提案②の技術の部活動の活躍の場につなげてください。 (例：保育園での看板製作など) また、ニーズの募集には、市役所のホームページや SNS、あんしんメールを活用して広く募集をしてください。

提案の理由	提案 1 おじいちゃん自慢川柳は、本人だけでなく、家族や近所から募集することで、
-------	--

	情報を集めることができます。また、イベントにすることで、楽しく参加してもらうことができます。より多くの人から応募いただくためには、小中学校へ周知してください。例えば、俳句や川柳の授業の時に活用してもらうことが出来ると思います。 ほかに、参加賞があることや、市内の企業や地域イベントとコラボレーションするとより効果的になると考えます。(例：関牛乳さんの商品、グッズのプレゼントなど) また、集まった川柳をもとに、対象者に特技や、地域への貢献の意向など詳しくヒアリングすることで、効率よく情報収集が可能になると考えます。 活躍の意向がとれた高齢男性は、提案②の技術の部活動に登録してもらい、実際に活躍してもらう事で、自分に自信を持ち、更に積極的に活動できると考えます。 提案2 「技術の部活動」があることで、シルバー人材センター等よりも気軽に、楽しく活躍できる高齢男性を募ることができると考えます。高齢男性の活躍に重きを置くため、気軽に参加できるよう「部活動」と表現しました。また、専門的な技術でなくても参加できるよう、シルバー人材センターのように有償ではなく、無償から始めると良いと考えます。 また、年金課やハローワーク、商工課「みんなサポ」と連携して案内することで、多くの対象者に周知することができます。 提案3 遠方での活動となると、車での移動が必要となり、高齢男性が活躍できなくなる場合があります。そのため、部活参加者の自宅近くで、困りごとを集約すれば高齢男性が参加しやすくなります。さらに、依頼者にとっても、顔見知りであるため、安心感があると考えます。 また、ニーズの募集には、市役所のホームページやSNS、あんしんメールを活用して広く募集したり、部活動の参加者を紹介することで、依頼者と部活動の参加者がつながりやすくなると考えます。
--	--

VI 今後の展開

提案した仕組みは、高齢男性が関わりやすい形であること、また地域から必要とされることを考えました。この仕組みができ、活用されるようになれば、民間へ移行することで、市の負担も軽減できると考えます。

また、この仕組みを活用して、高齢者を対象とした防災等の活動にも応用できると考えます。いきいきとした高齢者が増え、市民と行政の協働が進むよう願っています。



関市民が関を楽しみ、
その魅力を自発的に発信できる仕組みづくり

チーム「Uターン」

関市を離れても地元で貢献できる関市出身の 専門家の兼業・副業チームバンクの構築



高齢男性が地域と関わるができる 仕組みづくり



委員 チーム「観光」：多田 富士夫 / 上野 まゆみ / 土屋 隆 / 長谷部 和子 / 亀井 専 /
山田 みどり / 小笠原 かな / 川島 互

チーム「U ターン」：菊山 譲 / 村山 幸二 / 本間 貴久男 / 杉山 健二 / 加藤 悠史 /
瀬瀬 剛 / 木村 さわや / 古田 勇貴 / 大園 卓

チーム「ダイバーシティ」： / 白石 知美 / 朝倉 勝美 / 紅谷 美代子 / 梶山 貴子 /
山崎 泉 / 梅田 洋子 / 太田 進 / 渋谷 里恵 / 藤田 菜摘 / 船戸 綾里

発行日 2021 年 9 月 26 日

発行 関市まちづくり市民会議（事務局：関市市民活動センター）
 関市千年町 2-18-1 安桜ふれあいプラザ 1F
 TEL 0575-24-7772 FAX 0575-24-7660
 E-mail info@seki-siminkatudo.com